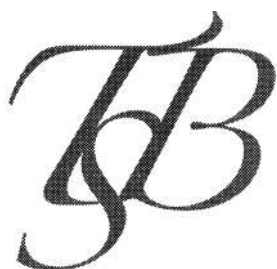


2019年度
授 業 概 要
(シラバス)

美術学部美術表現学科

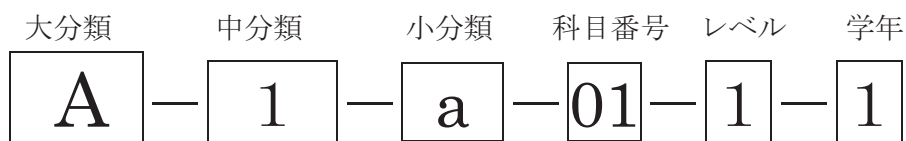


東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 学位授与の方針との関連は、次のページを参照してください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数数の1/3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

中分類：科目の区分

小分類：科目群

A・・・服飾文化専攻

1・・・大学共通教養科目

B・・・健康栄養学専攻

2・・・基幹科目

C・・・生活美術学科

3・・・学科専攻科目

D・・・美術表現学科

3・・・学科専攻科目

K・・・大学共通

4・・・教職に関する科目

5・・・博物館に関する科目

美術表現学科の学位授与の方針

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること。
2. 美術の基本的な体系を理解すること。
3. 美術、工芸、デザイン、メディア芸術(マンガ・イラスト・アニメーション・ゲーム)分野において、それぞれの専門知識と技能を身につけ、その知識や技能体系を、産業、文化、自然に関連付けて理解できること。

<汎用的技能>

4. 美術、デザイン、工芸、メディア芸術(マンガ・イラスト・アニメ・ゲーム)製造、教育、行政、に関する職業や創造及び地域貢献活動において、社会の問題に柔軟に対応することができる。
5. 地域社会の問題を解決する、コミュニケーション能力・論理的思考力・創造力・表現力を身につける。

<態度・志向性>

6. 自律的・主体的に他と協働して地域社会の一員としての責任を果たす事ができる。
7. 持続的な文化創造に寄与することができる意欲と倫理観・生涯学習力を身につける。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・技能・態度及び「地域創生演習」「卒業研究」等によって培った創造的思考力を総合的に活用することができる。
9. 自らが立てた新たな課題に、創造的思考力を適用し、主体的に解決する能力を身につける。

「実務経験のある教員による授業科目」一覧

教科名	担当者
工芸基礎Ⅱ	井上 直美

目 次

大学共通教養科目

ナンバリング	科目名	学年	開講期	担当者	頁
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	1	前期	菅野 修一	1
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	1	後期	菅野 修一	2
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	1	後期	菅野 修一	3
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	1	前期	堀江 佐知子	4
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	1	後期	堀江 佐知子	5
K-1-a-08-1	統計学	1	後期	池田 展敏	6
K-1-a-09-2	数学	1	前期	池田 展敏	7
K-1-b-01-1	経済学	1	前期	星 雅博	8
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	1	前期	庄司 一平	9
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	1	後期	庄司 一平	10
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	1	前期	栗原 伸一郎	11
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	1	後期	栗原 伸一郎	12
K-1-b-06-1	日本国憲法	1	前期	横田 尚昌	13
K-1-b-07-2	法学概説	1	後期	横田 尚昌	14
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	1	前期	徳田 幸雄	15
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	1	後期	徳田 幸雄	16
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	1	前期	植松 公威	17
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	1	後期	植松 公威	18
K-1-c-05-1	美術	1	後期	北折 整	19
K-1-c-08-1	生活文化論	1	前期	今林 直樹	20
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	1	前期	佐藤 恵	21
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	1	後期	佐藤 恵	22
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	1	前期	上之原 博子	23
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	1	後期	上之原 博子	24
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	1	前期	村山 茂	25
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	1	後期	村山 茂	26
K-1-d-07-1	中国語	1	前期	清水 浩一郎	27
K-1-d-08-1	日本語基礎	1	前期	清水 浩一郎	28
K-1-d-09-2	国語表現法	1	後期	清水 浩一郎	29
K-1-e-01-2	スポーツ身体科学	1	後期	土井 豊	30
K-1-e-02-2	スポーツ	1	通年	土井 豊	31
K-1-e-03-3	武道	1	前期	佐藤 淳一	32
K-1-f-01-1	スタディスキルズ	1	前期	大学教職員	33
K-1-f-02-2	ライフデザイン	1	後期	佐々木 晃	34

美術表現学科専攻科目

ナンバリング	科目名	学年	開講期	担当者	頁
D-3-a-01-1	絵画基礎Ⅰ(映像メディア表現を含む)	1	前期	北折 整・鶴巻 史子	35
D-3-a-02-1	絵画基礎Ⅱ	1	後期	北折 整・鶴巻 史子	36
D-3-a-03-1	彫刻基礎Ⅰ	1	前期	佐藤 淳一	37
D-3-a-04-1	彫刻基礎Ⅱ	1	後期	佐藤 淳一	38
D-3-a-05-1	工芸基礎Ⅰ(プロダクト制作を含む)	1	前期	井上直美・立花布美子・三浦輝子・森合暢子・山口綾子	39
D-3-a-06-1	工芸基礎Ⅱ	1	後期	立花 布美子	40
D-3-a-06-1	工芸基礎Ⅱ	1	後期	三浦 輝子	41
D-3-a-06-1	工芸基礎Ⅱ	1	後期	井上 直美	42
D-3-a-06-1	工芸基礎Ⅱ	1	後期	森合 暢子・山口 綾子	43
D-3-a-07-1	デザイン基礎Ⅰ(映像メディア表現を含む)	1	前期	三上 秀夫・鶴巻 史子・落合 里麻	44
D-3-a-08-1	デザイン基礎Ⅱ	1	後期	三上 秀夫・鶴巻 史子・落合 里麻	45
D-3-a-09-1	メディア芸術基礎Ⅰ	1	前期	鈴木 専	46
D-3-a-10-1	メディア芸術基礎Ⅱ	1	後期	鈴木 専	47
D-3-f-01-1	色彩学	1	前期	大堀 恵子	48
D-3-f-02-1	美術史Ⅰ	1	前期	瀬戸 典彦	49
D-3-f-03-2	美術史Ⅱ	1	後期	瀬戸 典彦	50
D-3-g-09-1	美術特別講義Ⅰ	1	前期集中	三上 秀夫	51
D-3-g-10-1	美術特別講義Ⅱ	1	後期集中	伊藤 恵夫	52
D-3-h-01-1	地域創生演習Ⅰ	1	前期	三上秀夫・鶴巻史子・渡邊一馬	53
D-3-h-02-1	地域創生演習Ⅱ	1	後期	瀬戸典彦・三浦輝子・和田正春	54

教職に関する科目

	科目名	学年	開講期	担当者	頁
K-4-a-01-1	教職概論	1	後期	笠間 賢二	55

博物館に関する科目

	科目名	学年	開講期	担当者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	1	後期	伊藤 優	56
K-5-a-02-2	博物館概論	1	前期	伊藤 優	57
K-5-a-08-2	博物館教育論	1	後期	伊藤 優	58

大学 共通 教養 科目

1. 大学共通教養科目

授業科目名	化学 I			単位 (総授業時間+自習時間)					2(30+60)					
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては現代の快適な生活はあり得ない。化学 I では、生活全般に密接に結び付いた化学の基礎的な内容を紹介する。さらに、身の回りを化学の目で見る習慣が身につくよう、化学の面白さや興味深さについても紹介する。さらには、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
物質についての基本的理解 (原子・分子の本質)					○	○	○		○					○
生活と化学の関係の理解					○	○	○							○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 科学と化学の関係					教科書指定ページの熟読。									
2. 物質とは何か、物質を粒子としてみる					教科書指定ページの熟読。									
3. 元素の周期表と原子の構造					教科書指定ページの熟読。									
4. 量子力学の歴史と基本的な概念					教科書指定ページの熟読。									
5. 電子と化学結合					講義ノートの総まとめ (1回目)。									
6. 身の回りの物質、無機物と有機物					教科書指定ページの熟読。									
7. 身の回りの物質、混合物と化合物					教科書指定ページの熟読。									
8. 混合物と化合物					教科書指定ページの熟読。									
9. 原子・分子の世界におけるモルの概念					教科書指定ページの熟読。									
10. 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー					講義ノートの総まとめ (2回目)。									
11. 化学反応と電子					教科書指定ページの熟読。									
12. 電子の不思議 (粒子としての電子・波としての電子)					教科書指定ページの熟読。									
13. 水の化学					課題を指定。									
14. 環境と化学、分析化学の紹介					教科書指定ページの熟読。									
15. 身の回りの高分子化合物					講義ノートの総まとめ (3回目)。									
履修上の注意														
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。														
成績評価方法・基準														
小テスト 30%、課題レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。														
教科書 [教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]														
参考書 必要に応じて個別に紹介する。														
備考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名	化学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
<p>化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。一方、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自然界と化学の関係の理解。					○	○		○				○	○
生活と化学の関係の理解。					○	○		○				○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
2. 気体の圧力と沸騰					教科書指定ページの熟読。								
2. 蒸発と沸騰、気化熱					教科書指定ページの熟読。								
3. 水に溶けるものと油に溶けるものの違い					教科書指定ページの熟読。								
4. 過冷却、融解熱の実験					教科書指定ページの熟読。								
5. 化学反応熱などの熱とエネルギー					講義ノートの総まとめ（1回目）。								
6. 塩析と生体の機能					教科書指定ページの熟読。								
7. 酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応					教科書指定ページの熟読。								
8. 酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤					教科書指定ページの熟読。								
9. 角砂糖の燃焼と生体エネルギー					教科書指定ページの熟読。								
10. 酸化と還元、活性酸素					講義ノートの総まとめ（2回目）。								
11. 電子の移動と電池、燃料電池など各種電池					教科書指定ページの熟読。								
12. 太陽エネルギーと光合成					教科書指定ページの熟読。								
13. 光、波と粒子としての性質、電波と光					課題を指定。								
14. 物質の色、炎色反応					教科書指定ページの熟読。								
15. 高分子化合物、酸素の性質					講義ノートの総まとめ（3回目）。								
履修上の注意													
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。													
成績評価方法・基準													
小テスト 30%、課題レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。													
教科書 [教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]													
参考書 必要に応じて個別に紹介する。													
備考													
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。													

授業科目名	有機化学 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表 1 年					
授業概要														
有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の $sp \cdot sp^2 \cdot sp^3$ の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
原子と電子配置について理解。					○	○		○						
有機化合物の分子レベルでの理解。					○	○	○							○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 日常生活における有機化学の重要性の認識について					教科書指定ページの熟読。									
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素					教科書指定ページの熟読。									
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス					教科書指定ページの熟読。									
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手					教科書指定ページの熟読。									
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習					講義ノートの総まとめ (1 回目)。									
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用					教科書指定ページの熟読。									
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体					教科書指定ページの熟読。									
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造					教科書指定ページの熟読。									
9. 炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式					教科書指定ページの熟読。									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質					講義ノートの総まとめ (2 回目)。									
11. 不飽和炭化水素、共有結合 (電子対結合)、電子対					教科書指定ページの熟読。									
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不對電子					教科書指定ページの熟読。									
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合					課題を指定。									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基					教科書指定ページの熟読。									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名					講義ノートの総まとめ (3 回目)。									
履修上の注意														
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。														
成績評価方法・基準														
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。														
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]														
参考書 必要に応じて個別に紹介する。														
備考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名	生物学 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	堀江 佐知子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表 1 年				
授業概要													
<p>生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。</p> <p>地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。</p>													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。				○									
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。								○		○			
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明				生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。									
2. 原始地球の誕生				地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
3. 地球と生命の誕生と進化				生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
4. 魚の進化				魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
5. 植物の進化 (植物の誕生)				植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
6. 植物の進化 (裸子植物の進化)				裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
7. 植物の進化 (被子植物の進化)				被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
8. 哺乳類の誕生				哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
9. 哺乳類の進化				哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
10. 鳥の進化				鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
11. 昆虫の進化 (昆虫の誕生)				昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
12. 昆虫の進化 (昆虫の情報戦略)				昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
13. 昆虫の進化 (昆虫の共進化)				昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
14. 人類の進化				人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
15. 講義のまとめ				講義内容をまとめる。									
16. 試験													
履修上の注意													
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。													
成績評価方法・基準													
課題、レポート及び学期末の試験 (50%)、受講態度 (50% : 講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する) により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。													
教科書 無し													
参考書 無し													
備考													
質問等については、講義の終了時に受付ける。													

授業科目名	生物学 II			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	堀江 佐知子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表 1年				
授業概要													
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。				○									
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。								○		○			
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明				生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。									
2. 生命の誕生				生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
3. ヒトの設計図、遺伝子				遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
4. 骨・筋肉				骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
5. 肝臓				肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
6. 胃・腸				胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
7. 心臓・血管				心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
8. 免疫				免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
9. 脳と心 (知覚)				脳 (知覚) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
10. 脳と心 (記憶)				脳 (記憶) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
11. 脳と心 (こころの進化)				脳 (こころの進化) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
12. 遺伝子 (日本人のルーツ)				遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
13. 遺伝子 (精神の設計図)				遺伝子 (精神の設計図) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
14. 生物多様性と保全				生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
15. 講義のまとめ				講義内容をまとめる。									
16. 試験													
履修上の注意													
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。													
成績評価方法・基準													
課題、レポート及び学期末の試験 (50%)、受講態度 (50% : 講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する) により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う													
教科書 無し													
参考書 無し													
備考													
質問等については、講義の終了時に受付ける。													

授業科目名	統計学				単位 (授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業の概要： 前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方について説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方について言及する。														
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。					○									
就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。					○									
確率分布の種類について理解し、区間推定に適用できる。					○									
統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。					○									
授業計画の内容					事前・事後学修の内容									
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）					教科書該当ページを読む。									
2. 1章：資料の整理（データと度数分布）					教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。									
3. 1章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）					教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。									
4. 1章：資料の整理（散布度、偏差、分散、標準偏差、データの標準化）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。									
5. 1章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。									
6. 2章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げ）					教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。									
7. 2章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）					教科書該当ページ、および、配布資料の復習									
8. 2章：確率（確率に関する演習）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。									
9. 2章：確率（確率変数、確率分布、離散型の場合の平均値の定義）					該当ページを読む。									
10. 2章：確率（確率変数、連続型の場合の平均値の定義、分布表の使い方、%点）					1章の全体復習。1・2章提出課題に取り組む。 確率分布表の使い方確認									
11. 3章：なぜ正規分布が必要か。中心極限定理					教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。									
12. 4章：平均値の区間推定（分散既知の場合とそうでない場合）					教科書該当ページを読む。									
13. 4章：区間推定の演習問題					教科書該当ページを読む。ノートの復習。									
14. 5章：検定とはどんなものか（平均値の検定）					教科書該当ページを読む。プリントの復習。									
15. 5章：検定の具体例（クロス表を使ったカイ2乗検定）					教科書該当ページを読む。2~5章の課題の提出。									
16. 試験					提出課題を復習して臨むこと。									
履修上の注意：電卓が必要な時があるので持参すること。														
成績評価方法・基準														
期末テスト（50%）。問題レポート（50%） レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。														
教科書〔中学数学でわかる統計授業〕〔涌井良幸・他〕〔日本実業出版〕〔1,800円〕														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。														

授業科目名	数学				単位 (授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業の概要： 数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明する。特に、集合と写像が数学理論の出発点となり、2項演算の導入により代数学が、変換群の導入により幾何学が発展することを述べていく。加えて、微分・積分は現代社会において欠かせないツールになっていることも説明する。また、数学の理論と中学・高校で教えられる基礎的数学の関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。														
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
数学に関する教養（歴史、分野、応用など）を修得する。					○									
集合の記法、写像の概念、関数のグラフ化、方程式の作り方や解き方を理解する。					○									
就職試験などで出題されるレベルの数学に慣れ、解ける。					○									
授業計画の内容					事前・事後学修の内容									
1. ガイダンス：数学の歴史と構成					板書の復習									
2. 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。					配布プリントの復習									
3. 無限集合の元の個数を比べること。					配布プリントの復習									
4. 集合に関する記法等の基礎事項					配布プリントの復習。									
5. 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数					配布プリントの復習。集合と数の演習問題を解く。									
6. 移動と回転で幾何学模様を分類する。					配布プリントの復習。対称性の演習問題を解く。									
7. 回転操作と演算表。群の定義（代数学入門）					配布プリントの復習									
8. 2項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。					配布プリントの復習。命題と論理に関する演習問題を解く。									
9. 一次方程式を作ったり解いたりする演習					配布プリントの復習。方程式に関する演習問題									
10. 速さと時間、距離。グラフを書く練習					配布プリントの復習									
11. 微分の定義					配布プリントの復習									
12. 数列と簡単な関数（一次関数、2次関数）の演習					配布プリントの復習。関数に関する演習問題									
13. 積分の意味					配布プリントの復習。									
14. 図形の面積、立体の体積					配布プリントの復習。幾何学に関する演習問題									
15. いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー					配布プリントの復習。全体レポートの提出									
履修上の注意：電卓が必要な時があるので持参すること。														
成績評価方法・基準														
テーマごとに出す宿題の提出（40%）。レポート（60%）。問題プリントは後日添削して返却し、一部を授業中に解説する。レポートは、後日解答例を配布する。														
教科書 パワーポイントの資料を配布する。														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。														

授業科目名	経済学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	星 雅博	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。					○									
社会人としての専門的な知識を身につける、						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス（経済学とは何か。）					経済学の考え方をまとめ次回提出する。									
2.社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給					需要と供給の内容を次回提出する。									
3.消費者の選択と消費需要の決定					消費者選択の過程を次回提出する。									
4.企業の生産行動					生産行動の過程を次回提出する。									
5.余剰、企業の集中、市場の失敗					市場の失敗の具体例を次回提出する。									
6.国民所得とは					国民所得の定義をまとめ次回提出する。									
7.景気					景気の種類をまとめ次回提出する。									
8.財政					財政のしくみを次回提出する。									
9.金融					金融のしくみを次回提出する。									
10.財政・金融政策					財政・金融政策の効果を次回提出する。									
11.国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論					国際通貨制度のしくみを次回提出する。									
12.国際経済機構と地域経済連携、EPAとODA					機構と連携の社会への影響を次回提出。									
13.戦後の国際経済制度					国際経済制度の変遷を次回提出する。									
14.日本経済の変遷					日本経済の変遷を次回提出する。									
15.経済史と経済学史					歴史から学ぶこれからの経済を提出。									
履修上の注意														
常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。														
成績評価方法・基準														
平常点80%（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート20%（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）														
ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。														
教科書 ：事前にプリントを配布します。														
参考書 ：なし														
備考														
質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名	社会学 I					単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表 1 年						
授業概要															
「常識」「自己と他者」「家族」「不安」「つながり」を考える社会学入門。社会と個人に関する二つの基本的な考え方—社会实在論(「個人ではなく社会がすべてだ」と社会名目論(「社会よりも個人が一番だ」)—を総合する知識社会学の考え方をふまえて、各トピックについて概説する。基礎知識の習得だけでなく、(社会学的なものの見方)を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
社会に関する幅広い教養を身につける						○	○								
社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける									○						
社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を養う											○		○		
授業計画の内容						事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す									
1. イントロダクション (1) ～「社会」という言葉～						辞典における「社会」の語義									
2. イントロダクション (2) ～「社会」の誕生～						霊長類の基礎知識									
3. 社会学の見方 (1) ～自殺の社会学～						デュルケーム『自殺論』の概要									
4. 社会学の見方 (2) ～資本主義の社会学～						ヴェーバー『プロ倫』の概要									
5. 知識社会学入門 (1) ～社会のなかの個人～						制度・規範・統制・階層									
6. 知識社会学入門 (2) ～個人のなかの社会～						常識の社会的成り立ち									
7. アイデンティティ (1) ～自己と他者～						社会的属性と役割理論									
8. アイデンティティ (2) ～共同性と倫理～						多様性と共生									
9. 家族の社会学 (1) ～社会集団論、近代家族論～						集団類型と家族観									
10. 家族の社会学 (2) ～日本の家族、アメリカの家族～						日米家族観の歴史的構築過程									
11. 不安の社会学 (1) ～社会不安の構造～						不安と恐怖の実存のおよび社会的構造									
12. 不安の社会学 (2) ～社会不安の諸相～						統計学的恐怖・不安と信仰									
13. つながりの社会学 (1) ～社会的ネットワーク論～						友人・夫婦ネットワーク									
14. つながりの社会学 (2) ～ソーシャル・キャピタル論～						つながりの社会的有用性									
15. まとめ						全体の振り返り									
履修上の注意 ：マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。															
成績評価方法・基準 ：①授業の理解度(ミニットペーパー) [50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。															
教科書 ：使用しない。プリントを配布する。															
参考書															
①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1,200 円+税。②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2,900 円+税。その他授業中に適宜紹介する。															
備考 ：質問等は授業終業時に受け付ける。															

授業科目名	社会学Ⅱ				単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
人間としての生活と人生を、「時間」を手掛かりに社会的に考える。一日・一年・一生という時間の単位に基礎づけられた諸文化には、「年中行事」と「人生儀礼」が必ず存在する。「暦（こよみ）」にもとづいた生活のリズムや、「年齢」とともに変化する人生の諸段階について、伝統社会と現代社会を対比しつつ解説する。さまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、生活と人生—とりわけ生と死—の諸問題について、主体的に考えることを目的とする。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会に関する幅広い教養を身につける						○	○							
社会学的想像力をふまえた表現力を身につける									○					
社会学的想像力をふまえた思考力・判断力を養う										○		○		
授業計画の内容						事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す								
1. インTRODクシヨン～時間と生活・人生～						辞典における「時間」の語義								
2. さまざまな時間の考え方						直線的時間論・円環的時間論								
3. 諸宗教の時間論						世界宗教における起源と終末								
4. 暦～一日と一年～						さまざまな暦								
5. 年齢と人の一生						年齢という制度・規範、年祝い								
6. 子供の社会学						祈願と祝いごと								
7. 若者の社会学～一人前と結婚～						通過儀礼・加入儀礼								
8. 老いの社会学 (1) ～老いとは何か～						老いの文化的相対性								
9. 老いの社会学 (2) ～超高齢社会の諸問題～						高齢者の統計学								
10. 病気の社会学						創られた概念としての「病気」「健康」								
11. 医療の社会学						医療化・キュアとケア								
12. 死の社会学 (1) ～死とは何か～						死の多義性・終末期と「お迎え」								
13. 死の社会学 (2) ～諸文化における死～						葬送と墓制・供養と悲嘆ケア								
14. 死生学の諸問題～どう生き、どう死ぬか～						老いと病・死の準備								
15. まとめ						全体の振り返り								
履修上の注意： マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。														
成績評価方法・基準： ①授業の理解度（ミニットペーパー）[50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。														
教科書： 使用しない。プリントを配布する。														
参考書： 新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2,808円。その他授業中に適宜紹介する。														
備考： 質問等は授業終業時に受け付ける。														

授業科目名	歴史Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容についてみていく。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイントをみていく。以上を通して、歴史を考える方法を紹介したい（単純な事項の暗記ではない）。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。					○	○				○				
②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。					○	○				○		○		
③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。					○	○				○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス～講義の概要～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。									
2. 歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①					配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。									
3. 歴史資料に親しむ②地図					配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。									
4. 歴史資料に親しむ③石碑					配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。									
5. 歴史資料に親しむ④新聞					配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。									
6. 歴史資料に親しむ⑤実物を見る					見学时、印象に残った歴史資料についてまとめ、提出する。									
7. 歴史資料を読み解く①公文書					宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。									
8. 歴史資料を読み解く②伊達政宗の編纂記録					これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。									
9. 歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②					これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。									
10. 歴史資料を読み解く④日記					配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴について理解を深める。									
11. 歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記					これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。									
12. 歴史資料と人物像②伊達政宗と位					これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。									
13. 歴史資料と人物像③伊達政宗と祭					これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。									
14. 歴史資料と人物像④伊達政宗と現代					これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。									
15. 補論と総括～歴史資料を考える～					これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の留意点を考えてみる。									
16. 試験					試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。									
履修上の注意														
歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。														
成績評価方法・基準														
平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%														
小レポート（博物館の展示見学に関するもの）20%														
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）50%														
ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。														
教科書 毎回プリントを配布する。														
参考書 講義中に紹介する。														
備考														
質問等は授業終了時に受け付ける。授業1回分として、博物館の展示見学を予定している。														

授業科目名	歴史Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
<p>歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかをみていく。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージについてみていく。以上を通して、歴史を考える方法を紹介したい（単純な事項の暗記ではない）。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。					○	○				○		○	
②歴史像が形成される過程や背景を理解する。					○	○				○		○	
③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス～講義の内容～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。								
2. 幕末維新の歴史イメージ①時代劇					配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。								
3. 幕末維新の歴史イメージ②教科書					配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。								
4. 幕末維新の歴史イメージ③一般書					配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。								
5. 歴史像の形成①明治時代					配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。								
6. 歴史像の形成②昭和戦前戦後					配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。								
7. 歴史像の形成③近代の東北地方					配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。								
8. 幕末維新の人物像①白虎隊					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。								
9. 幕末維新の人物像②新選組					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。								
10. 幕末維新の人物像③坂本龍馬					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。								
11. 幕末維新の人物像④玉虫左太夫					配布プリントを再読し、講義で取り上げた他の人物との相違について考える。								
12. 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩					配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。								
13. 東北地方と幕末維新②新政府の誕生と戊辰戦争					配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。								
14. 東北地方と幕末維新③奥羽越列藩同盟					配布プリントを再読し、奥羽越列藩同盟が結成される背景などについて理解を深める。								
15. 補論と総括～さまざまな歴史像～					初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。								
16. 試験					試験問題は事前に発表するので、準備しておくこと。								
履修上の注意													
<p>メディア等で幕末維新时期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30％ 期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70％ ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。</p>													
教科書 毎回プリントを配布する。													
参考書 『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。													
備考 質問等は授業終了時に受け付ける。													

授業科目名		日本国憲法			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要 憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事実と裁判所の判断をみながら解説していきたい。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。					○									
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。					○	○								
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。						○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 概説 (立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。)					近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかでどのように生きているのかを確認する。									
2. 天皇制と平和主義 (国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。)					日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する (歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。)									
3. 選挙制度 (多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。)					選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。									
4. 国会 (国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。)					国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。									
5. 内閣 (議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。)					政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。									
6. 裁判所 (警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。)					裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査の理論と実際について理解する。									
7. 地方自治 (地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。)					地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。									
8. 人権とは (1789 年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。)					そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。									
9. 人権の適用範囲 (私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。)					憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する									
10. 幸福追求権と法の下での平等 (幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。)					幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。									
11. 内心の自由 (思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。)					思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する									
12. 表現の自由 (集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損 [きそん] について解説する。)					表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。									
13. 経済的自由権 (職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。)					職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通じて日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。									
14. 生存権 (生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。)					福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権 (生存権および教育権) がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。									
15. 参政権、国務請求権 (選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。)					参政権とは何か、国務請求権とは何か (選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容) について把握する。									
履修上の注意 5回を超えて欠席 (6回以上欠席) した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。														
成績評価方法・基準 平常点40% (平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。)、レポート60% (レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。)。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。														
教科書 特になし (毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。)														
参考書 授業中に指示する。														
備考 オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。														

授業科目名	法学概説			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	横田 尚昌	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
この講義は、1年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳らかに知ることは困難です。ただ、そうした中であっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがああります。そうしたことを、この講義では各回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら進めていきます。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
法学一般の考え方が身についている。					○									
社会問題を法学という視点から考えることができる。					○	○								
さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。						○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. オリエンテーション														
2. みんなの法とわたしの法?					公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。									
3. どうして約束は守らないといけないの?					自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。									
4. 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの?					附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。									
5. どうして事故を起こしたら責任を負わされるの?					過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。									
6. 子どものしつけと虐待はどこが違うの?					「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。									
7. 校長先生の決定には従わないといけないの?					日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。									
8. マンガやアニメを規制してもいいの?					青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。									
9. どうして悪いことをした人に権利があるの?					被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。									
10. ギャンブルってやっちゃいけないの?					賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。									
11. 仕事ができないとクビにされるの?					解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。									
12. 手で掴めないものにも権利があるの?					著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。									
13. 損害保険と生命保険のちがって何?					わずかな保険料(掛け金)を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく									
14. 自動車保険のしくみ					自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。									
15. 株式会社って何?					株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となるところを把握する。									
履修上の注意														
欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。														
成績評価方法・基準														
平常点40% (平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。)、レポート60% (レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。)。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。														
教科書 特になし(毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する)														
参考書 授業中に指示する。														
備考														
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。														

授業科目名	哲学 I				単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	徳田 幸雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
人間は何のために生きるのか？死んだらどうなるのか？無になってしまうのか、それともあの世で生き続けるのか？人間にとって幸福とは何なのか？愛とは何か？善とは何か悪とは何か？これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえて概説する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
死生観についての基本的な知識を身につける					○	○				○				
人生観についての考察を深める					○					○				
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.ガイダンス					要しない									
2.古代ギリシャの時代背景—アテネとスパルター					チェックテスト①を見直す									
3.ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より					チェックテスト②を見直す									
4.ソクラテス②『クリトン』より					チェックテスト③を見直す									
5.ソクラテス③『パイドン』より					チェックテスト④を見直す									
6.プラトン① プラトンの生涯					チェックテスト⑤を見直す									
7.プラトン② アイデア論					チェックテスト⑥を見直す									
8.プラトン③ 想起説					チェックテスト⑦を見直す									
9.プラトン④ 愛と美について					チェックテスト⑧を見直す									
10.プラトン⑤ 徳と善について					チェックテスト⑨を見直す									
11.アリストテレス① アリストテレスの生涯					チェックテスト⑩を見直す									
12.アリストテレス② 三原理と四原因説					チェックテスト⑪を見直す									
13.アリストテレス③ 自然観、神観					チェックテスト⑫を見直す									
14.アリストテレス④ 霊魂観、倫理観					チェックテスト⑬を見直す									
15.まとめ					チェックテスト①～⑬を見直す									
履修上の注意														
公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。														
成績評価方法・基準														
毎授業時のチェックテスト (50%) チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。 学期末の試験 (50%)														
教科書 使用しない。授業時にプリントを配布する。														
参考書 無し														
備考														
質問等については、授業終了時に受け付ける。														

授業科目名	哲学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30-60)					
担当者	徳田 幸雄	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
<p>「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを学んだ上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（脳死や中絶など）について、その基本的な議論を学び、さらに考察を深めてゆく。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
幅広い人間観を身につける。					○	○						○	
諸宗教の基本的な知識を身につける。					○	○						○	
生命倫理の問題に関する知識を身につける。					○	○				○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス					要しない								
2.ユダヤ教の人間観					チェックテスト①を見直す								
3.キリスト教の人間観① 原罪とは？					チェックテスト②を見直す								
4.キリスト教の人間観② キリスト教史					チェックテスト③を見直す								
5.イスラームの人間観① 六信より					チェックテスト④を見直す								
6.イスラームの人間観② 五行より					チェックテスト⑤を見直す								
7.インドの諸宗教における人間観					チェックテスト⑥を見直す								
8.仏教の人間観① 四諦より					チェックテスト⑦を見直す								
9.仏教の人間観② 日本仏教より					チェックテスト⑧を見直す								
10.近代哲学における人間観—合理論と経験論					チェックテスト⑨を見直す								
11.心理学における人間観 精神分析学より					チェックテスト⑩を見直す								
12.臓器移植と脳死について					チェックテスト⑪を見直す								
13.優生思想について					チェックテスト⑫を見直す								
14.人工妊娠中絶について					チェックテスト⑬を見直す								
15.総括					チェックテスト①～⑬を見直す								
16.試験					要しない								
履修上の注意													
公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。													
成績評価方法・基準													
毎授業時のチェックテスト（50%）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。 学期末の試験（50%）													
教科書 使用しない。授業時にプリントを配布する。													
参考書 無し													
備考													
質問等については、授業終了時に受け付ける。													

授業科目名	心理学 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。					○	○								
2 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。					○	○								
3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶、短期記憶、長期記憶の関係を理解し、説明できるようになる。					○	○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス (教授内容と教育目標)					シラバスを熟読すること。									
2. 条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－					資料を熟読し、要点をまとめること。									
3. 心理学の目標と研究のプロセス					資料やノートを復習し、要点をまとめること。									
4. 説得における「一面 (片面) 提示」と「二面 (両面) 提示」の効果－					実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。									
5. 認知的不協和理論について					実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。									
6. 現代の心理学の背景① 行動主義心理学 (ワトソンの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
7. 現代の心理学の背景② 行動主義心理学 (スキナーの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
8. 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論 (バンデュラの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
9. 現代の心理学の背景④ 精神分析学 (フロイトの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
10. 精神分析学における自我防衛のメカニズム					資料を熟読し、専門用語を理解すること。									
11. 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説					資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。									
12. まとめの小テスト					あらかじめ復習してテストに臨むこと。									
13. 記憶の実験－系列位置曲線と系列位置効果－					実験結果の考察を考え、レポートすること。									
14. 記憶のしくみ－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－					ノートを見直し、専門用語を理解すること。									
15. エビングハウスの忘却曲線について					資料とノートを見直し、感想をまとめること。									
16. 試験					試験対策の学習をすること。									
履修上の注意														
毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。														
成績評価方法・基準														
レポート課題 20%、試験 80%。														
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。														
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。														
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。														
教科書 授業の中で資料 (プリント) を配布する。														
参考書 授業の中で適宜、紹介する。														
備考														
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。														

授業科目名	心理学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
「性格はどのようにして測定されるか」、「性格は変えることができるか」というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査（心理テスト）の種類とそれぞれの長所・短所について実習をとりいれながら講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 質問紙法，作業検査法，投影法それぞれの長所と短所を理解する。					○	○								
2 認知療法の「7つのコラム法」が気分（感情）の改善に効果があるのはなぜか，説明できるようになる。					○	○								
3 交流分析における「エゴグラム」を作成し，その意味について理解し，自己の性格をどのように改善していけばよいか分析できるようになる。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）					シラバスを熟読すること。									
2. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の実施方法					資料とノートを復習し，実施方法を理解すること。									
3. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法（尺度判定）					資料やノートを復習し，判定方法を理解すること。									
4. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法（類型判定）と問題点					資料などを復習し，判定方法や要点を理解すること。									
5. 作業検査法（内田クレペリン精神検査）の特色と問題点					実施方法，判定方法，問題点を理解すること。									
6. 投影法の種類－ロールシャッハ・テストを中心に－					ロールシャッハ・テストの要点をまとめること。									
7. 集団式のロールシャッハ・テストの判定方法と問題点					資料を見直し，判定方法と問題点を理解すること。									
8. 他者の性格を推論するときに注意すべきこと－認知のゆがみなど－					資料とノートを復習し，専門用語を理解すること。									
9. 性格は変わるかという問題について考える					資料をよく読み，要点をレポートすること。									
10. 認知療法の基本的な考え方（人間観）					資料とノートを復習し，要点をまとめること。									
11. 認知療法の7つのコラム法の作成方法について					資料を復習し，実際にコラムを作成すること。									
12. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－5つの自我状態－					資料とノートを見直し，要点を理解すること。									
13. 交流分析におけるエゴグラムの作成					資料やノートを見直し，実際に作成すること。									
14. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－ストロークとは－					資料やノートを見直し，要点をまとめること。									
15. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－幼児決断とは－					ノートを見直し，考え方を理解すること。									
16. 試験					試験対策の学習をすること。									
履修上の注意														
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。														
成績評価方法・基準														
レポート課題 20%，試験 80%。														
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。														
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。														
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。														
参考書 授業の中で適宜，紹介する。														
備考														
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。														

授業科目名		美術			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)				
担当者	北折 整	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
美術が生活文化の重要な構成要素であることを自覚させ、日常目にするありふれたものや事柄、行為に対する美術的な視点を獲得させる。広範な美術作品(含む大衆美術)の作例を数多く紹介し、表現の基となっている考え方や感覚について平易に解説する。また、基礎的な美術表現の技術や方法論、表現に関わる問題点等を知ることを目標に簡単な演習を課す。さらにこれらの提出課題を全体に提示、講評し、身近な他者の表現を鑑賞することで、美術を通じた自己理解及び新たな価値観の構築を促す。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・美術が生活文化の一つであることを理解できるようになる。						○								
・美術表現の基礎的な方法を理解できるようになる。					○									
・多様な価値観を受容する力を身に付ける。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業の導入：科目の説明・授業の方針・成績評価の方法					アンケートの記入、次回課題についての調査									
2. 「扉」：出入口をテーマに扱った美術					「課題ノート：扉」の作成及び次回課題についての調査									
3. 「壁」：を意識した美術					「課題ノート：壁」の作成及び次回課題についての調査									
4. 「西瓜」：視覚化に関わる美術表現					「課題ノート：西瓜」の作成及び次回課題についての調査									
5. 「ジプシーの荷物」： //					「課題ノート：ジプシー」の作成及び次回課題についての調査									
6. 「詰め込む」：日常の作業感覚を取り入れた美術					「課題ノート：詰め込む」の作成及び次回課題についての調査									
7. 「蛇口から出るもの」： //					「課題ノート：蛇口～」の作成及び次回課題についての調査									
8. 「つなぐ」： //					「課題ノート：つなぐ」の作成及び次回課題についての調査									
9. 「夢の世界」：深層心理を顕在化した美術					「課題ノート：夢の世界」の作成及び次回課題についての調査									
10. 「ダヴィデ」：環境との関係によって創出される物の意味					「課題ノート：ダヴィデ」の作成及び次回課題についての調査									
11. 「動物を描く」：個人的キャラクターの創造					「課題ノート：動物～」の作成及び次回課題についての調査									
12. 「空」：空の表現に見る美術史					「課題ノート：空」の作成及び次回課題についての調査									
13. 「リレー式絵本」(1)：コラボレーション制作における誤解と可能性					「課題ノート：リレー式絵本」の継続作成									
14. 「リレー式絵本」(2) //					「課題ノート：リレー式絵本」の継続作成									
15. 授業の総括：全項目に係るまとめ					「課題ノート：まとめ」の作成									
履修上の注意：														
<ul style="list-style-type: none"> ・「課題ノート」には授業毎の「ふりかえり」及び次回授業に関する調査を記入し、適宜提出を求める。 ・簡単な演習に対応する色鉛筆等の画材を各自準備する。 														
成績評価方法・基準： 「課題ノート」（課題・授業内容への理解 80%）と授業態度（質疑応答、協調性 20%）／各課題については、授業中にフィードバックを行う。														
教科書： 特に指定しない。														
参考書： 特に指定しない。														
備考：														
<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 														

授業科目名	生活文化論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	今林 直樹	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年			
授業概要												
<p>生活文化について、言語、衣食住、芸能、祭礼に焦点をあて、主として文献資料を用いて具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえて学ばせる。具体的には、伝統的な生活文化が現代に生きる沖縄を対象として取り上げる。</p> <p>また、課題（授業時提出）をとおして沖縄の生活文化についての考察や感想などを述べさせる。課題については、翌週の授業で解説する。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
沖縄の生活文化について理解できる。				○	○		○		○		○	
生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。				○	○		○		○		○	
今後の生活文化の課題について考察できるようになる。				○	○		○		○		○	
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1.生活文化とは何か・沖縄概説				生活文化と沖縄を調べる								
2.沖縄の言葉(1) 生活言語としての「うちなあぐち」				沖縄の言葉の概要を整理する								
3.沖縄の言葉(2) 「うちなあぐち」は言語か方言か				沖縄の言葉の社会的意味を整理する								
4.沖縄の言葉(3) 「うちなあぐち」の保存と継承				沖縄の言葉の現在と将来を整理する								
5.沖縄の「衣」(1) 紅型				紅型について調べる								
6.沖縄の「衣」(2) ミンサー織				ミンサー織について調べる								
7.沖縄の「食」(1) 沖縄そば				沖縄そばについて調べる								
8.沖縄の「食」(2) チャンプルー				チャンプルーについて調べる								
9.沖縄の「住」(1) 赤瓦の家				沖縄の住景観について調べる								
10.沖縄の「住」(2) 風水				沖縄の住思想について調べる								
11.沖縄の芸能(1) 古典芸能				琉球古典芸能について調べる								
12.沖縄の芸能(2) 八重山芸能				八重山芸能について調べる								
13.沖縄の祭(1) 信仰との関係―御嶽・ニライカナイ―				沖縄の信仰について調べる								
14.沖縄の祭(2) 豊年祭				沖縄の豊年祭について調べる								
15.沖縄の祭(3) 種取祭				沖縄の種取祭について調べる								
16.期末試験												
履修上の注意												
必要のない私語は慎むこと。												
成績評価方法・基準												
期末考査 80%、課題（授業時提出） 20%によって評価する。												
教科書 授業前に資料を配布する												
参考書 [沖縄の歴史・政治・社会][今林直樹][大学教育出版][2200 円]												
備考												
質問等については授業終了後に受け付ける。												

授業科目名		英語 I			単位 (総授業時間+自習時間)			2(30+60)						
担当者	佐藤 恵	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語 I では Chapter 1 All About Tea を取り上げる。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。					○	○								
世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。						○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス					前期の学習内容について確認する。									
2. 嗜好品について					嗜好品について理解し、覚える。									
3. English Tea ① Cup & Saucer					茶器について読み、ノートをまとめる。									
4. " ② Passion for Tea					お茶の伝播について読み、ノートをまとめる。									
5. " ③ Milk & Sugar					ミルクと砂糖について読み、ノートをまとめる。									
6. " ④ Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
7. China, the Cradle of Tea ① Tea Tree					お茶の木について読み、ノートをまとめる。									
8. " ② The History of Tea					お茶の歴史について読み、ノートをまとめる。									
9. " ③ Macha					抹茶について読み、ノートをまとめる。									
10. " ④ Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
11. The Route of Coffee ① Coffee Cantata					珈琲カンタータについて読み、ノートをまとめる。									
12. " ② Mocha					モカについて読み、ノートをまとめる。									
13. " ③ Coffee House					コーヒーハウスについて読み、ノートをまとめる。									
14. " ④ Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
15. まとめ					ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。									
16. 期末試験					総復習をして試験に臨む。									
履修上の注意														
テキストとともに必ず辞書 (スマホ携帯は不可) を持参して授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
平常点 40% (授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。) 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。														
教科書 [A Global Tour of Dietary Culture] [大橋久利 他著] [成美堂] [1,700 円]														
参考書 なし														
備考														
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付ける。														

授業科目名	英語Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)						
担当者	佐藤 恵	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に付けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語Ⅰでは Chapter 2 The Sphere of Culture Represented by Cutlery を取り上げる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。					○	○								
世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					前期の学習内容について確認する。									
2. カトラリーについて					カトラリーについて理解し、覚える。									
3. The Culture of the Knife and Fork ① Fork					フォークについて読み、ノートをまとめる。									
4. " ② Aristocracy					階級とカトラリーについて読み、ノートをまとめる。									
5. " ③ Thumb Plate					親指について読み、ノートをまとめる。									
6. " ④ Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
7. The Culture of the Chopsticks ① China					中国の箸文化について読み、ノートをまとめる。									
8. " ② Japan					日本の箸文化について読み、ノートをまとめる。									
9. " ③ Korea					朝鮮の箸文化について読み、ノートをまとめる。									
10. " ④ Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
11. The Culture of the Eating with the Fingers ① Islam					イスラムの手食文化について読み、ノートをまとめる。									
12. " ② the right hand / the left Hand					右手と左手の用い方について読み、ノートをまとめる。									
13. " ③ Hindu					ヒンドゥーの手食文化について読み、ノートをまとめる。									
14. " ④ Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
15. まとめ					ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。									
16. 期末試験					総復習をして試験に臨む。									
履修上の注意														
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。														
教科書 [A Global Tour of Dietary Culture] [大橋久利 他著] [成美堂] [1,700 円]														
参考書 なし														
備考														
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名	英会話 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)					
担当者	上之原 博子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、やさしい英語の読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語でコミュニケーションがとれるようにする。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指す。また、授業を通して異文化を理解するよう指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。					○			○						
2. 自分自身に関する事柄について説明できる。										○				
3. グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につけることができる。										○	○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス。挨拶と自己紹介。					自分の好きな事を考えてくる。									
2. 簡単な質問と答え方学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
3. 家族について話す。数・日付を学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
4. 自分の持ち物について話す。時間・色を学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
5. 自分の好きなことについて話す。食べ物・飲み物を学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
6. 自分の生き方について話す。手紙の書き方を学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
7. 1～6の復習。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
8. 自分が住んでいるところについて話す。部屋の中のもの学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
9. 毎日の決まったことを話す。頻度を表す語を学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
10. 趣味について話す。英字新聞を読んでもみる。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
11. スポーツについて話す。様々なスポーツ・衣服を学ぶ。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
12. 食生活について話す。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。 会話文を日本語で考える。									
13.夏休みについて話す。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。 会話文を英文にする。									
14. 7～13の復習。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。 会話文を完成させる。									
15. これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。					復習プリントを確認し提出する。会話文を完成させる。									
履修上の注意														
授業には積極的に参加する事。授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。														
成績評価方法・基準														
授業態度30%(授業への参加態度で判断する)、毎回の課題提出40%、学期末の試験(英語の会話文の発表)30%で評価します。														
教科書 [Breakthrough Plus Intro Student Book +DSB Pack (digital book)] [Miles Craven] [Macmillan Language House ©][2,700円]														
参考書 : 特になし。														
備考														
質問等については、授業終了時に受け付ける。														

授業科目名	英会話 II				単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)			
担当者	上之原 博子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美表1年			
授業概要												
<p>前期で身につけた英語力を使って、友人とコミュニケーションをとり、意見を交換したり本来の目的のために英語を使う。日本人特有の英語表現や、日本的な会話形式の代わりに、日常会話として、より自然な英語語彙やフレーズを学ぶ。さらに、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、日本文化の説明の仕方を習得することを目指す。また、英語の表現方法としてスピーチの練習を行う。トピックは自己紹介や趣味、自分の故郷等身近なことが中心である。授業は学生の進捗状況により進めていく。</p>												
授業の到達目標					学位授与の方針との関連							
					1	2	3	4	5	6	7	8
1. 他者とのコミュニケーション能力を身につける。					○			○			○	
2. 様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようにする。					○	○			○	○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)							
1. 交通案内：様々な交通機関についての基本的な案内を学ぶ。 スピーチ：自己紹介					日本の交通機関を調べる。 自分のことを考えてみる。							
2. 日本の旅館について。スピーチ：私の好きな事					旅館の特徴を考える。好きな事を考える。							
3. 観光地について学ぶ。スピーチ：私の好きな場所					自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。							
4. 街歩きのための道案内。スピーチ：私の好きな物					お勧めの場所を考える。好きな物を考えてみる。							
5. 日本の年中行事を紹介する。スピーチ：私のふるさとの行事					紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。							
6. 日本食の紹介①代表的な日本料理 スピーチ：私の好きな日本食					代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。							
7. 日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理 スピーチ：私好きな郷土料理					気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。							
8. 国内旅行をアレンジする。スピーチ：即興にチャレンジ					国内旅行をアレンジしてみる。							
9. 英語で絵本を楽しむ。					興味のある絵本を調べる。							
10. 日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。スピーチ：私の好きな日本文化					紹介したい行事やポップカルチャーを調べる。 地元のイベント。							
11. 自分の日本文化体験を紹介する。スピーチ：私の日本文化体験					体験した日本文化について調べる。							
12. 日本のお土産を紹介する。スピーチ：日本の良いところ					日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。							
13. ケガや病気の対応について。スピーチ：即興にチャレンジ												
14. 東京オリンピックでのボランティアについて。スピーチ：私とボランティア					ボランティア活動について考えてみる。							
15. 学期を振り返る。												
履修上の注意 ：積極的に授業に参加することを求める。												
成績評価方法・基準												
平常点30% (授業への参加態度で判断する。) 課題の提出 30% スピーチ40% (内容だけではなく取り組む姿勢を重視する。) スピーチ原稿は回収し、後日添削して返却する。												
教科書 配布するプリントを使用する。												
参考書 ：特になし。												
備考												
質問等については、授業終了時に受け付ける。												

授業科目名	仏語 I				単位 (総授業時間+自習時間)			1(30+15)					
担当者	村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年				
授業概要													
発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけではなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。					○	○				○		○	
フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.授業方針。アルファベ。					事後に復習が必要。								
2.アルファベ復習。発音の規則1。					事後に復習が必要。								
3.発音の規則2。					事後に復習が必要。								
4.発音の規則小テスト。フランスについて。数字1。					事前に小テスト準備、事後に復習が必要。								
5.数字2。簡単なあいさつの表現。					事後に復習が必要。								
6.パリに着いた!(空港)1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
7.パリに着いた!(空港)2.文法。					事後に復習が必要。								
8.パリに着いた!(空港)3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
9.ホテルに着いた!(フロント)1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
10.ホテルに着いた!(フロント)2.文法。					事後に復習が必要。								
11.ホテルに着いた!(フロント)3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
12.アロー、アロー(郵便、電話)1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
13.アロー、アロー(郵便、電話)2.文法。					事後に復習が必要。								
14.アロー、アロー(郵便、電話)3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
15.まとめの講義					事後に最終試験のための準備が必要								
16.試験													
履修上の注意													
私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。													
成績評価方法・基準													
最終回に行う確認のための筆記試験(70~80%)に20~30%の平常点(積極性などのポイント)を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削してフィードバックし後日返却する。													
教科書 [はじめてのバリー新・改訂版一] [大津、瀧川、藤井著] [朝日出版社] [2,400円]													
参考書 : 特にないが、必要に応じてプリントを配布する													
備考													
質問等については、授業終了時にオフィスアワーまたは電子メールにて受け付ける。													

授業科目名	仏語Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）			1(30+15)					
担当者	村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画なども教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけではなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。仏語Ⅰを引き継ぐ形で進めてゆく。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
仏語Ⅰを引き継ぎ、初級フランス語の基礎を固め、より一層の理解と表現が可能になる					○	○				○		○	
引き続きフランスの文化に触れることで、国際的視野が広がる。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.テラスでお茶を(カフェ)1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
2.テラスでお茶を(カフェ)2.文法。					事後に復習が必要。								
3.テラスでお茶を(カフェ)3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
4.メトロに乗ろう(地下鉄)1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
5.メトロに乗ろう(地下鉄)2.文法。					事後に復習が必要。								
6.メトロに乗ろう(地下鉄)3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
7.名所を廻ろう(観光バス)1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
8.名所を廻ろう(観光バス)2.文法。					事後に復習が必要。								
9.名所を廻ろう(観光バス)3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
10.DVDによる学習					事後に疑問点を整理しておくこと。								
11.水を買う（食料品店）1.解説と会話文。					事後に復習が必要。								
12.水を買う（食料品店）2.文法。					事後に復習が必要。								
13.水を買う（食料品店）3.練習問題。					事前に予習、事後に復習が必要。								
14.まとめの講義 1。					事後に最終試験のための準備が必要。								
15.まとめの講義 2。（補足を含む）					事後に最終試験のための準備が必要。								
16.試験													
履修上の注意													
初心を忘れず、根気良く継続すること。													
成績評価方法・基準													
最終回に行なう確認のための筆記試験（70～80％）に20～30％の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は後日返却可能。													
教科書 〔はじめてのパリ一新・改訂版一〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400円〕													
参考書 ：特になし。													
備考													
質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。													

授業科目名	中国語			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)						
担当者	清水 浩一郎	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を学修することにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発音練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、例文の読解や受講者同士の会話練習をおこない、これを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などの知識を習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介していきます。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
正確な中国語の発音を身につける					○									
中国語で簡単な会話ができるようになる					○									
中国の文化や習俗について学ぶ						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス：中国や中国語の基礎知識。					教科書を購入して目を通す。									
2. 第一課：声調と単母音の発音練習					事前：教科書に目を通す。 事後：CDを聴きながら発声練習をする。									
3. 第一課：副母音の発音練習					同上									
4. 第二課：子音（声母）の発音練習					同上									
5. 第三・四課：要注意な発音と声調変化の練習					同上									
6. 発音のおさらい					同上									
7. 第五課：“是（～です）を用いた文章。発音練習・例文読解・練習問題					同上									
8. 第六課：“お名前は何？”①。発声練習・例文読解					同上									
9. 第六課：“お名前は何？”②。発声練習・練習問題					同上									
10. 第七課：“ご出身は？”。発声練習					同上									
11. 第七課：指示代名詞“这（これ）と“那”（それ・あれ）。発音練習					同上									
12. 第七課：発音練習・例文読解・練習問題					同上									
13. 第八課：“飲み物は？”。発声練習					同上									
14. 第八課：“什么（なに）と“哪个（どの）。発声練習・例文読解・練習問題					同上									
15. 発声・文法のまとめ／発音のテスト					学習した部分を全体的に復習する。									
16. 文法のテスト					テストの準備をする。									
履修上の注意														
発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、上記の予定通りに進まない場合があります。														
成績評価方法・基準														
平常点 30%（平常点は授業への参加状況や発音練習などから総合的に判断） 発音テスト 20% 文法テスト 50%														
教科書〔日中いぶこみ交差点〕〔相原茂 等〕〔朝日出版社〕〔2,700 円〕														
参考書 なし														
備考														
質問等については、学習支援室で受け付けます。詳細についてはガイダンスで説明します。														

授業科目名	日本語基礎				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)						
担当者	清水 浩一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>本講では、実用的側面及び教養的側面から、日本語の基礎的知識について講義をおこなう。まず前半期（2～7回目）は、日本語の基礎となる事柄と、論理的な文章を書くための方法論について学習する。次いで後半期（8～14回目）において、どのようにして現代の日本語が成り立ったのか、或いは日本語とはどのような特徴を持つ言語なのか、歴史的経緯をふまえて講義をおこなう。以上を通じて最終的には、各受講者が基本的な日本語運用能力を身に付けると同時に、国語について自分なりの考え方を持てるようになることを目標とする。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。					○									
日本語の特徴について基礎的な知識を得る。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス：授業の概要と目的、宿題の作成方法					宿題01の作成（毎回100～300字程度の作文を課します）									
2.日本語の基礎①：文法と表記					宿題02の作成									
3.日本語の基礎②：文章作法（1）					宿題01の復習									
4.日本語の基礎③：文章作法（2）					宿題03の作成及び宿題01・02の復習									
5.日本語の基礎④：日本語読解の要点（1）					宿題01・02・03の復習									
6.日本語の基礎⑤：日本語読解の要点（2）					宿題04の作成									
7.日本語の基礎⑥：敬語・慣用句					宿題04の復習									
8.日本語の特徴①：漢字・ひらがな・カタカナのなりたちや役割					宿題05の作成及び宿題04の復習									
9.日本語の特徴②：鎌倉時代までの日本語とその特徴					宿題04・05の復習									
10.日本語の特徴③：室町時代までの日本語とその特徴					宿題06の作成及び宿題04・05の復習									
11.日本語の特徴④：江戸時代までの日本語とその特徴					宿題04・05・06の復習									
12.日本語の特徴⑤：過去から現代に至る日本語の連続性					宿題07の作成									
13.現代語の特徴①：日本語の現状と傾向についての分析と考察①					宿題08の作成及び宿題07の復習									
14.現代語の特徴②：日本語の現状と傾向についての分析と考察②					宿題07・08の復習									
15.講義のまとめ					宿題01～08の総合的な復習									
16.試験														
履修上の注意														
①後期に開講される「国語表現法」も履修することが望ましいです。														
②毎回授業のはじめに読解力強化のための小テストを課しますので、遅刻をしないようにしてください。														
成績評価方法・基準														
<p>期末試験（40％）と平常点（15％：平常点は授業への参加状況や小テストなどから総合的に判断）、宿題（45％）によって評価します。宿題は講義終了後に回収し、次々回に添削して返却することでフィードバックします。未提出の宿題がある場合・宿題の再提出に応じない場合には、評価の対象としないことがあります。</p>														
教科書 講義前に資料を配付します。														
参考書 講義中に適宜紹介します。														
備考														
①提出された宿題が水準に満たない場合は、再提出を求めます。														
②講義内容に関する質問や宿題の追加添削は、学習支援室で受け付けます。オフィスアワー詳細についてはガイダンスで説明します。														
③国語に関する疑問がありましたら、随時お寄せください。次回の講義でコメント致します。														

授業科目名	国語表現法				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)						
担当者	清水 浩一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
履歴書の「志望動機」や「自己 PR」、エントリーシート（ES）で頻出する質問事項などを題材に、課題の作成と添削を通じて、「ひとつの文章で扱う話題はひとつ」・「大切なことは真っ先に書く」・「設計図」を作成してから文章を書く」など、日本語で読み書きするための要点を身につけます。「読み」については、文章の大意を把握できるようになることを目標とします。「書き」については、作文と添削を繰り返しおこなうことで、単語と単語・文と文の繋がりがや文章全体の構成を意識できるようになることを目標とします。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本語を「読み」・「書き」するための要点を身に付ける。					○									
日誌・履歴書等、社会で活躍するために必要な文書を書けるようにする。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス：授業の概要と目的、課題の作成方法について説明します					課題作成の方法を復習する									
2.自己紹介をしてみましょう（課題 01）					課題 01 の作成									
3.「読み」・「書き」の要点について学習します					講義内容の復習・課題 01 の再提出									
4.実用文書作成①：履歴書の「志望動機」（課題 02）の書き方を学びます					課題 02 の作成及び課題 01 の再提出									
5.実用文書作成②：履歴書の「自己 PR」（課題 03）の書き方を学びます					課題 03 の作成及び課題 01・02 の再提出									
6.実用文書作成③：ES で頻出する質問への対応を学びます					課題 01 の復習及び課題 02 の再提出									
7.実用文書作成④：「あなたの長所と短所は？」（課題 04）					課題 04 の作成及び課題 02・03 の再提出									
8.実用文書作成⑤：「今までに力を入れて取り組んだことは？」（課題 05）					課題 05 の作成及び課題 02・03・04 の再提出									
9.日誌の書き方①：実習日誌の書き方を学びます					課題 05 の再提出及び課題 02・03・04 の復習									
10.日誌の書き方②：「実習記事」を作成します（課題 06）					課題 06 の作成及び課題 05 の再提出									
11.日誌の書き方③：「考察」や「反省点」を作成します（課題 07）					課題 07 の作成及び課題 05・06 の再提出									
12.日誌の書き方④：「実習全体のまとめ」を作成します（課題 08）					課題 08 の作成及び課題 06・07 の再提出									
13.文章の読み方①：文章の大意を把握する方法と要約文の書き方を学びます					課題 08 の再提出及び課題 06・07 の再提出									
14.文章の読み方②：要約文を作成します（課題 09）					課題 09 の作成及び課題 06・07・08 の再提出									
15.まとめ					課題 09 の再提出及び課題 06・07・08 復習									
履修上の注意														
①前期に開講される「日本語基礎」の内容をふまえて授業をおこなうため、当該の講義を履修することが望ましいです。														
②毎回講義のはじめに読解力強化のための小テストを課しますので、遅刻をしないようにしてください。														
成績評価方法・基準														
試験は実施しません。平常点（30％：授業への参加状況等を総合的に判断します）、小テスト（15％）と提出課題（55％）によって評価します。小テストは、次の講義で返却・解説をおこないます。課題は毎回講義終了時に回収し、添削してフィードバックします。なお、未提出の課題がある場合・課題の再提出に応じない場合については、評価の対象としないことがあります。														
教科書 講義前に資料を配付します。														
参考書 講義中に適宜紹介します。														
備考														
①提出された課題が水準に満たない場合は、再提出を求めます。														
②質問や課題に関する追加添削は、学習支援室で受け付けます。オフィスアワー詳細についてはガイダンスで説明します。														

授業科目名	スポーツ身体科学				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	土井 豊	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表 1年					
授業概要														
<p>本授業では、今後の健康的な生活の設計及びその継続にとって重要な〔健康・体力の維持増進〕について、「健康の三要素（運動・栄養・休養）」を中心に解説する。特に、現代においてはむしろ若年層の人達に運動不足傾向が顕著であることに鑑み、現代人の多くが罹患する可能性のある各種疾病と運動不足との関連性、ならびに適切な運動実施・継続による健康改善効果等に関する学習を通して、今後の健康・体力づくりに向けての知識と態度及び実践力等を身につけられるよう教育する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
体力と健康に関する基礎的知識を身につける。					○									
運動と健康・体力との関連性に関する認識を深める。						○								
今後の健康・体力づくりへの意欲と実践力を身につける。												○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「スポーツ身体科学」概説（ガイダンス）					今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出									
2. 「健康とは何か」及び「健康観の変遷」等について					学習内容と感想等をまとめ次回提出									
3. 「現在の日本における健康の姿」について					同上									
4. 「ライフスタイル（生活習慣）の現状と課題」について					同上									
5. 「体力と健康」：体力の分類及びその重要性について					同上									
6. 「運動と健康」：運動不足と健康について					同上									
7. 「健康的な痩身方法に関する理論と実際」					「誤った減量法」について次回提出									
8. 「身体組成」及び「自身の肥瘦度」についての測定実習					測定結果と感想等をまとめ次回提出									
9. 「メタボリックシンドロームとその予防」について					学習内容と感想等をまとめ次回提出									
10. 「ロコモティブシンドロームとその予防」について					同上									
11. 「骨粗鬆症とその予防」について					同上									
12. 「運動処方」の考え方等について					同上									
13. 「健康増進における栄養・運動・休養の役割」について					同上									
14. 「救急処置 ABC」について					同上									
15. まとめ及び総括					本授業に関する自己評価及び授業評価									
履修上の注意														
<p>正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>授業への出席状況ならびにほぼ毎回課すレポートの内容を基に総合的に評価しフィードバックする。その内訳については、出席状況（出席回数と授業態度）50%、レポート評価50%とする。</p>														
教科書 ：使用しない。授業前に資料を配布する。														
参考書 ：適宜紹介する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・受講人数等の事情により（例えば受講者が5名以下など）、授業形態を講義方式からゼミナール（演習）方式に変更する場合があります。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。 														

授業科目名	スポーツ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60+30)					
担当者	土井 豊	必・選	選	形態	実技	学期	通年	対象	美表1年					
授業概要														
年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。そして、勝利チームの各人には勝ち点を与え称賛する方式を採用して、団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また一方では、対戦結果（勝敗）に関わらず、各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。また個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。					○									
団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。						○		○						
今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。										○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（個人票作成等）					今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出									
2. 身体計測（体位・体格等診断）					今後の自身の目標等について次回提出									
3. 体力測定 I（運動能力テスト）					測定内容と結果等をまとめ次回提出									
4～6. ソフトボール					ルール等の予習、及び技術の強化									
7～9. ターゲットバードゴルフ					同 上									
10～12. バレーボール&バスケットボール					同 上									
13～14. バレーボール又はバスケットボール&フットサル					同 上									
15. ラジオ体操（第一&第二）の練習					ラジオ体操の復習及び練習									
16. ラジオ体操（第一&第二）の実技試験					試験後の自己評価をまとめ次回提出									
17～19. ミニテニス					ルール等の予習、及び技術の強化									
20～23. バドミントン					ルール等の予習、及び技術の強化									
24～27. 筋肉トレーニングとサーキットトレーニング					トレーニング方法を復習かつ自己鍛錬									
28. 身体計測（体位・体格等診断）					目標達成状況についてまとめ次回提出									
29. スポーツ実技試験					試験後の自己評価等をまとめ次回提出									
30. まとめ及び総評					本授業に関する自己評価及び授業評価									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、運動のできる服装（ウエア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。 ・ 正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。 ・ また、遅刻 3 回で欠席 1 回と見なすので注意すること。 ・ 通算して欠席が 7 回以上の者は、評価の対象外とする。 														
成績評価方法・基準														
個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、出席状況 25%、授業加点 25%、レポート 25%、実技試験 25%とする。														
教科書 ：なし														
参考書 ：なし														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。 ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。 														

授業科目名	武道				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 淳一	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年				
授業概要													
現代武道の1つで世界36カ国に普及し世界統一組織である少林寺拳法を、講義と実技で教授します。単に身体が丈夫になるだけではなく、心と体を調和させながら、他人と競い合う強さではなく、自己と向きあい何事にも負けることのない本当の強さ（自己確立）を体得します。呼吸法や、座禅を行うことにより心身の調整法を学び、どのように相手が攻撃してきても、力の大小、性別に関わらず自分や大切な人を守ることでできる少林寺拳法の護身の技術と心を、少林寺拳法七段で全国指導員の担当教員が伝授します。財団法人少林寺拳法連盟に全員所属して、前期で6級（緑帯）取得を目標に教授します。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
少林寺拳法の基礎的技術を体得することができる					○	○				○			
自己確立について理解することができる					○	○				○			
他と協働しながら楽しく修練できる							○			○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.少林寺拳法について、ガイダンス、技術体験					シラバスを読む。鍛錬法修得								
2.基本、講義、座禅、構え、運歩法、突き、蹴り基本					正中線鍛錬法実践								
3.基本、講義、座禅 受身、各種構え、攻撃法、防御法					丹田鍛錬法実践								
4.基本、講義、座禅、各種受身、上受け、内受け					鍛錬法実践								
5.基本、講義、座禅、上段、中段直突き、蹴り上げ					体幹鍛錬法 四股								
6.基本、講義、座禅、柔法（小手抜き、守法）					体幹鍛錬法 四股								
7.基本、講義、座禅、柔法（腕十字固め）					体幹鍛錬法 四股								
8.基本、講義、座禅、柔法（寄り抜き）					体幹鍛錬法 振り子突き								
9.基本、講義、座禅、剛法（流水蹴り）					体幹鍛錬法 振り子突き 中段								
10.基本、講義、座禅、単独演武天地拳第一					体幹鍛錬法 振り子突き 下段								
11.基本、座禅、単独演武竜王拳第一					体幹鍛錬法 蹴り								
12.基本、座禅、剛法（内受け突き）					体幹鍛錬法 まわし蹴り								
13.基本、座禅、剛法（下受け蹴り）					昇級レポート作成準備								
14.基本、座禅、柔法（逆小手）					昇級レポート作成準備								
15.6級昇級試験準備					昇級レポート作成、提出								
履修上の注意													
自他の安全に留意し、授業時間内にできない部分を積極的に自習すること。教員が指導します。													
成績評価方法・基準													
実技評価 40%、授業態度（集中して修練しているか 20%、学んだことが礼儀等態度に現われているか 20%）昇級レポート 20%（評価して返却することでフィードバックします）													
教科書 少林寺拳法級拳士副読本、科目表（財団法人少林寺拳法連盟）													
参考書 はじめよう少林寺拳法（ベースボールマガジン社）													
備考													
1 回目から修練します。運動のできる服装で来てください。修練前後の清掃は毎回おこないます。2 回目から雑巾を持参してください。授業外での質問はオフィスアワーで受け付けます。													

授業科目名	スタディスキルズ				単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+15)					
担当者	大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
大学生生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識について指導する。本学の歴史や教育内容、大学での学びについての基礎知識、情報教育センター・図書館等の設備仕様の活用法、履修方法等について指導を行う。各自学習目標を設定し、入学前に取り組んだ e-learning の復習を実施すると共に、基礎学力向上のための課題を設定し、さらなる理解の向上を図る。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大学生生活に必要な基礎的知識・学習能力を身につけることができる。					○									
自主的に課題を解決する能力を身につけることができる。					○									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス、学修ポートフォリオについて					シラバス・学生便覧等の資料を持参する									
2. 大学で学ぶということ (学長)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
3. 大学での学び (生活美術学科長)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
4. 図書館の活用 1 (村山)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
5. 履修の方法等(授業の受け方、試験に関する心得) (北折)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
6. 情報処理教育センターの活用 (松尾)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
7. 基礎学力向上 1 (入学前課題の事後指導) e-learning (鶴巻)					e-learning 準備・制作ノートのまとめ									
8. 研究倫理について (美術表現学科教員)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
9. 基礎学力向上 2 (入学前課題の事後指導) e-learning (立花)					e-learning 準備・制作ノートのまとめ									
10. 基礎学力向上 3 国語 (三浦)					材料の準備・制作ノートのまとめ									
11. 図書館の活用 2 (村山)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
12. 基礎学力向上 4 国語 (大堀)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
13. ポートフォリオ制作について (三上)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
14. ノートの取り方・レポートの書き方 (瀬戸)					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
15. まとめ (1年担任)					学習ポートフォリオの記入・課題のまとめ									
履修上の注意														
授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録をとること。 毎回担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。														
成績評価方法・基準														
提出課題 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。 提出物については、授業中にフィードバックします。														
教科書 e-learning の教材 (他、授業時にプリントを配布する) 適宜指示する。														
参考書 適宜指示する														
備考														
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。														

授業科目名	ライフデザイン			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)				
担当者	佐々木 晃	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、できたことをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける					○	○				○		○	
学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける					○	○				○		○	
学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明					より良い生活のために何が必要か考える								
2.自分史作成 ～自己を知る～					自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ								
3.自己分析・自己理解・自己管理					各種の分析を用いて人間性を科学する								
4.学生生活のデザイン					生活を見直しより豊かな生活を見通す								
5.時事問題理解力、思考力、表現力					情報を取捨選択して活用する能力を培う								
6.社会人に求められるもの					社会に必要な行動・思考・協働を学ぶ								
7.社会で働くための資質・能力					採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ								
8.業界・企業研究					最新の経済動向を踏まえた学びを深める								
9.課題発見能力・協調性・提案力					現状に満足せず次を考える学びを深める								
10.ビジョン構築力					自分や組織の本来の使命を理解する								
11.ライフステージとライフイベント					人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ								
12.ライフデザインとライフプラン					両者の概念の違いを予習し把握する								
13.ライフデザインの作成					表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う								
14.ライフデザインの発表					内容を平易に伝えるための工夫を行う								
15.キャリア開発に向けて					学修全体を振り返り今後役に立てる								
履修上の注意													
本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。													
成績評価方法・基準													
平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）													
・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。													
教科書 [シンプルリスト] [ドミニック・ローホー] [講談社] [630円]													
参考書 なし													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ループリック評価については第1回目の授業で説明します。 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 													

美術表現学科専攻科目

2. 美術表現学科専攻科目

授業科目名	絵画基礎 I (映像メディア表現を含む)			単位 (総授業時間+自習時間)					2(60)					
担当者	北折 整・鶴巻史子	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>「絵画とは何か」を理解するために、絵画及び映像メディアの制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。さらに、制作に集中する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好する心を育む。絵画の制作では、石膏像・静物を対象としたデッサン、静物・風景・人物(着衣)を対象とした着彩を教授する。ここでは対象物を客観的に写生させることを念頭に、伝統的な絵画技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。映像メディアの制作では、デジタル技術による絵画表現に関わる映像の制作を教授し、現代的な表現技術について指導する。</p>														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。				○										
・絵画を自分自身の問題意識と結びつけることができる。							○							
・集中して学習する態度を身に付ける。				○										
・絵画の基礎が美術制作全般に通じることを理解できる。					○									
授業計画の内容(1～13北折担当、14～15鶴巻担当)				自習(事前・事後学修の内容)／任意										
1.導入(科目・成績評価・画材等の説明)制作Ⅰ-①静物デッサン-幾何形体(描画)				次回課題に使用する画材の準備										
2.制作Ⅰ-②静物デッサン-単体(描画)(講評会)				〃										
3.制作Ⅰ-③静物デッサン-複数(描画)				課題の継続制作										
4. 〃 (描画)(講評会)				次回課題に使用する画材の準備										
5.制作Ⅰ-④石膏デッサン-首像(描画/全体)				課題の継続制作										
6. 〃 (描画/部分)(講評会)				次回課題に使用する画材の準備										
7.制作Ⅱ-①静物着彩(描画/全体)				課題の継続制作										
8. 〃 (描画/部分)(講評会)				次回課題に使用する画材の準備										
9.制作Ⅱ-②風景着彩(描画/全体)				課題の継続制作										
10. 〃 (描画/部分)(講評会)				次回課題に使用する画材の準備										
11.制作Ⅱ-③人物着彩(描画/全体)				課題の継続制作										
12. 〃 (描画/部分)				〃										
13. 〃 (描画/細部・仕上げ)(講評会)				〃										
14.制作Ⅲ映像 映像表現の説明、テーマに沿った映像の収集				課題の継続制作(映像)										
15. 〃 映像の組み立て、完成(講評/精度・説得力等)				〃										
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・課題(90%)と授業態度(10%) ・各課題については授業中にフィードバックを行う。 														
教科書 ：特に指定しない。														
参考書 ：随時参考となる画集・映像等を紹介する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 ・都合により、モチーフを若干変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 														

授業科目名		絵画基礎Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	北折 整・鶴巻史子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>「絵画とは何か」を追求するために、絵画の制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。絵画基礎Ⅰの受講を踏まえ、より専門的に美術表現としての絵画の有効性を理解させる。また、個人の技術上の課題を明確にした上で、持続的に制作する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好し美術活動に取り組む姿勢を育む。石膏像・静物・人体(ヌード)を対象としたデッサン、静物・人体(ヌード)を対象とした着彩を教授する。ここでは対象物を丹念に観察し客観的且つ正確に写生させることを念頭に、伝統的な表現技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。					○									
・絵画を自分自身が生活する社会と結びつけて考えることができる。								○						
・持続的に学習する態度を身に付ける。					○									
・絵画の表現が美術全般に通じることを理解できる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）／任意									
1.導入(科目・成績評価・画材等の説明)、制作Ⅰ石膏デッサン(描画/全体)					課題に使用する画材の準備									
2.制作Ⅰ石膏デッサン(描画/全体)					課題の継続制作									
3. " (描画/部分)					"									
4. " (描画/細部・仕上げ)(講評会/量感・空間)					次回課題に使用する画材の準備									
5.制作Ⅱ－①静物デッサン(描画/全体)					課題の継続制作									
6. " (描画/部分・仕上げ)					次回課題に使用する画材の準備									
7.制作Ⅱ－②静物着彩(描画/全体)					課題の継続制作									
8. " (描画/部分・仕上げ)(講評会/構図・固有色)					次回課題に使用する画材の準備									
9.制作Ⅲ－①人体デッサン(描画/全体)					課題の継続制作									
10. " (描画/部分)					"									
11. " (描画/細部・仕上げ)					次回課題に使用する画材の準備									
12.制作Ⅲ－②人体着彩(描画/全体)					課題の継続制作									
13. " (描画/部分)					"									
14. " (描画/細部・仕上げ)					"									
15. " (講評会/比率・ムーヴマン、科目の総括)														
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・課題(90%)と授業態度(10%) ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。 														
教科書：特に指定しない。														
参考書：随時参考となる画集等を紹介する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。 														

授業科目名	彫刻基礎 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)				
担当者	佐藤 淳一	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年				
授業概要													
彫刻とは何かを学ぶ導入部分である。教員の作品や制作活動を紹介し興味を喚起し主体的に取り組むための基礎的態度を身に付けさせる。彫刻の基礎的知識、造形要素である、量感、塊、動勢、空間、表面を塑造により教授する。													
デッサンを重視し紙のうえで造形要素を意識させてから実際にモデルを使用し心棒作りから制作、石膏取りまでを教授する。立体の意識を身に付けるために自作教材の面取りの像も参考にさせながら制作し、造形力と基礎的スキルを身に付けさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
彫刻の基礎的造形力を身につける					○	○					○		
身体感覚としての触覚を意識できる					○								
作業を他と協働して行うことができる												○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、教員作品紹介					シラバスを読む。課題提出								
2.触覚トレーニング、石膏像 (ハイジア) のデッサン、					「手」デッサン、課題提出								
3.芯作り、粘土練					自由課題デッサン、石膏デッサン								
4.制作1 (荒付け 面)					自由課題デッサン、石膏デッサン								
5.制作2 (塊と動勢)					制作継続								
6.制作3 (全体と部分)、自己評価					制作継続								
7友人の頭部 (デッサン、塑造荒付け)					制作継続								
8.友人の頭部 (骨、荒付け、面、塊と量感、動勢)					頭蓋骨デッサン								
9.友人の頭部 自己評価、講評					頭蓋骨デッサン								
10.石膏取り (解説、石膏使用法、ネガ型作り)					制作継続								
11.石膏取り (ネガ型作り)					制作継続								
12.石膏取り (ネガ型作り、粘土抜き)					作業到達目標まで進める								
13.石膏取り (ポジ型作り、はり込み)					作業到達目標まで進める								
14.石膏取り (割り出し、修正)					作業到達目標まで進める								
15.講評会 (石膏取りレポート提出)					制作のまとめ作成								
履修上の注意													
各種美術展の見学レポート、石膏取りのレポートを作成、提出します。作業の安全に留意して怪我をしないようにしてください。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度 (集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%) 提出レポート 20% (評価して返却することでフィードバックします)													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 彫刻をつくる (美術出版社)、授業内で紹介													
備考													
1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。													

授業科目名	彫刻基礎Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	佐藤 淳一	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
彫刻を理解した制作において重要な、テーマと文化、自然と社会との関係について石彫の実技を通して教授する。軟石を使用して動物彫刻を制作する。八木山動物園で実際の動物を観察しその生動感を安山岩で表現する。「触覚」を意識し素材の良さを引き出すトレーニングをする。彫造の基礎的造形要素である、量感、動勢、空間、表面を教授します。マケットを制作し塑像、石膏取りを行い、彫造の意識を身に着けるために稜線をつなぐ面取りを教授する。石を彫る身体の使い方と、造形力の養成を行い彫刻の基礎的スキルを教授することにより、主体的に美術活動に取り組む態度を指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
彫造の基礎的造形技術を身につける					○		○							
身体感覚としての素材感覚を意識することができる						○						○		
制作を他と協働して安全に行うことができる								○			○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、触覚トレーニング					シラバスを読む。課題提出									
2、動物の骨格研究、制作素材（安山岩）説明と実技					動物骨格研究、課題提出									
3.動物のデッサン、マケット制作					動物骨格研究、自由課題デッサン、									
4,マケット制作（芯作り、荒付け 面）					マケット完成まで進める									
5.石膏取り（稜線をつなぐ面）講評					制作継続									
6 荒彫り（稜線をつなぐ面、動勢、全体と部分）					制作継続									
7.制作（谷彫、量感表現法）					制作継続									
8.制作（塊と量感）					制作継続									
9.制作（動勢表現法）					制作継続									
10.制作（全体と部分、空間）					制作継続									
11.制作（細部、密度）					制作継続									
12.制作（密度表現、）					作業到達目標まで進める									
13.制作（空間表現、）					作業到達目標まで進める									
14.制作（場と彫刻、）					作業到達目標まで進める									
15.講評会					まとめ									
履修上の注意														
各種美術展の見学レポートの提出は別途支持します。作業中は自分だけでなく、他の人も怪我をしないように十分に安全に配慮してください。石彫の場合作業が遅れると作品ができません、欠席しないように充分体調を管理してください。														
成績評価方法・基準														
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%（評価して返却します）														
教科書 授業前に資料配布														
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）、授業内で紹介														
備考 1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。														

授業科目名		工芸基礎（プロダクト制作を含む）Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	井上直美・立花布美子 三浦輝子・森合暢子 山口綾子	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>工芸とは、ものづくりとは何かを歴史や文化、現代の工芸などの多種多様な視点から工芸に関する理解を深める。この授業は、染色・陶芸・漆芸・ガラスアートの4分野を学ぶ。各分野の素材、材料、道具を含めた基礎知識を修得する。また、作業工程を理解した上で各技法、装飾を活かし、用途や目的、機能性を含めた制作を通して工芸の可能性について探求していく。各分野進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
工芸に関する基礎知識・学習能力を身につけることができる。					○									
工芸分野における基本的な体系を理解することができる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 基礎工芸Ⅰ・Ⅱについて（立花・三浦）														
2. [陶芸] ①（立花）作業工程・釉薬・粘土について					配布プリント参照（特に作業工程）									
3. [陶芸] ②（立花）やきものの歴史					配布プリント参照									
4. [陶芸] ③（立花）東北（宮城）の陶芸					東北（宮城）の陶芸に関する資料収集									
5. [漆芸] ①（井上）漆についての説明 木地の調整の固め					持ち物の確認をする									
6. [漆芸] ②（井上）箸の摺漆					配布プリント参照									
7. [漆芸] ③（井上）箸の摺漆 漆器の使用方法についての説明					配布プリント参照									
8. [染織] ①（三浦）染織の基礎知識について					染織に関する資料収集・制作ノート作成									
9. [染織] ②（三浦）色糸効果 平織りの組織図と色糸配列について					織物に関する資料調査・制作ノートのまとめ									
10. [染織] ③（三浦）織計画 デザイン・糸量の計算					図案に関する研究調査・制作ノートのまとめ									
11. [ガラスアート] ①（山口）ガラス工芸の基礎知識 トンボ玉とは														
12. [ガラスアート] ②（山口）トンボ玉制作体験														
13. [ガラスアート] ①（森合）酸素バーナーの基礎知識														
14. [ガラスアート] ②（森合）酸素バーナーワークの実演														
15. 講評会（立花・三浦）					まとめ									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごと内容が異なるため、積極的に受講し記録を取る。 ・担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80%）、提出物（20%）による評価。 ・提出物については、後日フィードバックを行う。 														
教科書 授業の中で各担当教員が指示する。														
参考書 授業の中で各担当教員が指示する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・各担当都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。 														

授業科目名		工芸基礎Ⅱ（陶芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	立花 布美子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>工芸基礎Ⅱでは、制作や鑑賞を通して現代の“やきもの”の文化、生活の関わりについて理解を深めるよう、工芸基礎Ⅰで学んだ基礎的知識であるやきものの歴史、陶土と磁土の違いについて復習する。また、土練りの特徴、手びねりにおける3つの基礎的な成形方法を経て、乾燥から本焼きまでの作業工程を習得できるよう指導する。同時に各技法により使用する道具、機械、窯（種類）の特徴について教授した上で、完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションができるよう、主体的に制作に取り組む力を身につけさせる。</p>														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
やきものに関する基礎知識を身につけることができる。						○								
やきものに関する文化、生活での関わりについて理解を深めることができる。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 製陶法（歴史、陶土・磁土、釉薬、作業工程等）の復習						配布プリントを熟読すること（特に作業工程）								
2. 土練り（荒練り、菊練り）、紐づくり練習						参考書、配布プリント参照、復習								
3. 【手びねり成形】①つまみ出し成形による飯碗制作						つまみ出し成形の特徴を復習								
4. ②つまみ出し成形による飯碗仕上げ						仕上げ作業の復習								
5. ③紐づくり成形によるマグカップ制作（切立・各自デザインの2種）						紐づくり成形の特徴を復習（切立とは）								
6. ④紐づくり成形によるマグカップ仕上げ（切立）						仕上げ作業の復習								
7. ⑤紐づくり成形によるマグカップ仕上げ（各自デザイン）						〃								
8. 【タタラ（板）成形】①板皿制作 粘土をスライスする						タタラ（板）成形の特徴を復習								
9. ②板皿制作 形のデザイン、（石膏による押し型成形も含）						押し型成形について予習								
10. ③陶箱制作 顔料の練込み・粘土をスライスする						練り込みについて予習								
11. ④陶箱制作 カット・組み立て、仕上げ						仕上げ作業の復習								
12. 釉掛け（飯碗・マグカップ） *釉薬の掛け分け						釉掛け作業の復習								
13. 釉掛け（板皿） *下絵付けによる装飾						下絵付けについて予習								
14. 釉掛け（陶箱） → 窯詰め（本焼き）						釉掛け作業の復習								
15. 窯出し 講評						まとめ								
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・工芸基礎科目であるため、欠席・遅刻の無いよう授業に臨むこと。 ・遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加状況 50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50% ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。 														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 〔基礎の陶芸1：器のつくりかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2,376円〕 〔新技法シリーズ102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024円〕														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。 														

授業科目名	工芸基礎Ⅱ（染織）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(90+30)					
担当者	三浦 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>染織技法の基礎となる「染め」「織り」について実習を行う。織計画に基づく組織図の記入方法及び浸染による糸染めについて指導を行い、色系効果では平織の色系配列によるパターンの可能性に関する研究を行う。染め実習では染色器具・染料・助剤等の役割、織り実習では三原組織と織機の構造を理解し、染織分野における基礎的な工程を把握する。織設計では図案に基づき素材を選択、浸染実習による糸染めを行う。卓上機を用いた制作工程を通して、織機の構造を理解しながら、設計したデザイン案に沿って織り作品を制作できるよう指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
染織実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。					○	○								
織物の基礎である平織の技術を身につける。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス染織の基礎知識について					染色に関する資料収集・制作ノート作成									
2. 織り実習：色系効果 平織りの組織図と色系配列について					織物に関する資料調査・制作ノートのまとめ									
3. // : 織計画 デザイン					図案に関する研究調査・制作ノートのまとめ									
4. // : 糸量の計算					素材に関する研究・制作ノートのまとめ									
5. 浸染実習：糸の総分け					浸染実習準備・制作ノートのまとめ									
6. // : 精練					浸染実習準備・制作ノートのまとめ									
7. // : 浸染 1色目					染色実習準備・制作ノートのまとめ									
8. // : 浸染 2色目					染色実習準備・制作ノートのまとめ									
9. // : 糸巻き 色見本帳制作					見本帳作成準備・制作ノートのまとめ									
10. 織り実習：整経					織機に関する調査・制作ノートのまとめ									
11. // : 機上げ（卓上機）					織実習準備・制作ノートのまとめ									
12. // : 織り作業①（下部）					織実習準備・制作ノートのまとめ									
13. // : 織り作業②（上部）					織実習準備・制作ノートのまとめ									
14. // : 仕上げ					講評会用備品準備・制作ノートのまとめ									
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる									
履修上の注意														
<p>染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 実習費として実費（4000円程度）を徴収する。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。</p>														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4200円〕														
備考														
<p>受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。 質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。</p>														

授業科目名	工芸基礎Ⅱ（漆芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	井上 直美	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
漆芸技法の中でも基礎といえる摺漆技法を通し、漆の特性と可能性を理解出来る様に指導する。摺漆はお椀2客に10回以上漆を抜き重ねる。さらに漆の特性と性質を理解する為に、後半にお椀の制作と並行して、塗り皿への加飾を指導する。塗り皿の表面へ金箔、銀箔を使った箔絵の加飾（箔の扱いも覚える事が出来る）と色漆を使った文様、柄などの色付、絵付をして、加飾の多様な表現が出来る力を身に付けられる様に指導する。漆芸作家の経験を基に並行してエンドユーザーのニーズを踏まえた上での作家の姿勢を学ばせる。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
摺漆を理解し、お椀を完成出来る。				○		○							
箔絵を通し、箔の扱いが出来るようになる。				○		○							
漆の特性を活かし、漆絵を表現出来るようになる。				○		○							
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. 講義・漆について。授業の説明・注意、作品の紹介、ビデオ鑑賞復習				配布したプリントを読んでくる									
2. 材料配布・木地調整・木地固め				プリントを基に素材について理解してくる									
3. 目止め、塗り皿のデザイン考察				絵のデザインの資料を用意しておく									
4. 目止め研ぎ、箔絵作業（金箔、銀箔を貼って絵や文様を見せる）				箔絵のデザインを考察しておく									
5. 述べ摺り 漆1：灯油2 箔絵下書き 漆絵作業（既存の色漆を使って自由に絵を描く）				箔絵のデザインを完成させる									
6. 述べ摺り 漆1：灯油1 箔絵マスキング 漆絵下書き				漆絵のデザインを考察しておく									
7. 述べ摺り 漆2：灯油1 箔貼り1回目 マスキング				漆絵のデザインを完成させる									
8. 述べ摺り 漆3：灯油1 箔貼り2回目 色漆塗り1色目				色漆の色を決めておく									
9. 生摺り1回目 箔貼り3回目 色漆塗り2色目				色漆の残りの色を決めておく									
10. 生摺り2回目 箔仕上げ 色漆塗り3色目				箔絵の足りない部分を完成させる									
11. 生摺り3回目 摺り漆 色漆塗り4色目				色漆の色塗りを完成させる									
12. 生摺り4回目 調整 仕上げ				摺りの足りない回数を終わらせる									
13. 生摺り5回目 サイン サイン				サインを考察しておく									
14. 生摺り6回目 サイン				足りない仕上げをしておく									
15. 磨き・合評会				完成後の扱い方をまとめておく									
履修上の注意													
作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。忘れ物をしない。													
成績評価方法・基準													
授業態度（50%）⇒積極性、普段の姿勢、理解度など													
作品提出（50%）⇒完成度、デザイン、センス、成長率													
講評会でフィードバックする。													
教科書 授業中に適宜資料を配布する。													
参考書 [やさしく身に付くうるしのはなし1][日本漆工協会][2,160円]													
備考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。													

授業科目名	工芸基礎Ⅱ (グラスアート)			単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	森合暢子・山口綾子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年				
授業概要													
<p>ガラス工芸の“バーナーワーク”という分野から、①軟質ガラス+エアバーナー②硬質ガラス+酸素バーナーの性質の異なるガラス素材と作業用器具を扱い、それぞれの違いと制作の多様性を学ばせる。前半の①では、柔らかい性質のガラスを用い“トンボ玉”の制作を指導する。主にガラスの扱いと炎の性質を理解し、安全に基本の作業や道具の扱い方を身につけさせる。後半の②では、ガラス工芸の種類と酸素バーナーワークの基礎的な技術を指導する。</p>													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
安全なバーナーの取り扱いができるようになる。				○									
イメージした形をガラスで作れるようになる。									○				
ガラスと炎の特性を知ることができる。				○		○							
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. トンボ玉ガイダンス (授業内容について) 作業手順や道具の説明、ガラスを溶かしてみる (山口)				参考書やガラス関連の資料に目を通す。 参考書やガラス関連の資料に目を通す。 自他作品をよく見る。									
2. トンボ玉基本の作業：ガラスを溶かすことに慣れる・伸ばす・丸くする・回転だけで玉を作る 離形剤の付け方 (山口)													
3. トンボ玉基本の作業：芯棒の外し方、トンボ玉の掃除の仕方、コテを使って玉にする。基本技法：点打ち①水玉文様 (山口)													
4. 基本技法：点打ち②同心円文様 (山口)													
5. 基本技法：点打ち③花文様 (山口)													
6. トンボ玉課題制作「点打ち技法のトンボ玉をつくる」(山口)													
7. トンボ玉講評会 (山口)													
8. ガイダンス (森合)													
9. ガラス工芸の種類について 作品鑑賞 (座学) (森合)													
10. 酸素バーナーワークについて 作品鑑賞 (座学) (森合)													
11. 酸素バーナーの取り扱いについて 作品実演 (森合)													
12. 制作実演 酸素バーナーの取り扱い実技(安全講習)(森合)													
13. ①ガラスを溶かしてみる (実技) (森合)													
14. ②ガラスを溶かしてみる (実技) (森合)													
15. ガラス作品鑑賞 (学外研修) (森合)													
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 安全のため、服装や髪型 (結ぶ) など講師の指示に従うこと。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 50%、制作への姿勢 50% 各課題について、講評会でフィードバックを行う。 													
教科書 事前にプリントなどを配布する。													
参考書 [トンボ玉] [小暮紀一] [ほるぷ出版] [2,808 円] 《山口》													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> 材料費の徴収があります。都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 質問等については、授業後にオフィスアワーを設けます。 													

授業科目名	デザイン基礎 I (映像メディア表現を含む)			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)										
担当者	三上秀夫・鶴巻史子・落合里麻		必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年								
授業概要																		
<p>デザインの基本的な知識やスキルを身につけことを目的とし、平面と立体に分けて課題制作に取り組ませる。平面では、抽象的な図形による画面構成に取り組み、制作意図に沿った表現ができるように指導する。立体では、平面状の紙から立体が生成する仕組みを通して、素材の特性による効果と造形表現の美しさ、可能性を見出せるよう指導する。(立体課題1)では直線・曲線による折り、(立体課題2)ではポップアップを制作させる。</p> <p>平面(三上・鶴巻/8回)、立体(落合/7回)によるオムニバス授業である。</p>																		
授業の到達目標						学位授与の方針との関連												
						1	2	3	4	5	6	7	8	9				
図形を丁寧に描く技術を身につけることができる。						○												
図形を意図的に配置することができる。							○											
素材の特性を造形表現として活かすことができる。						○												
幾何形体についての基本的な内容を理解できる。							○											
授業計画の内容						自習(事前・事後学修の内容)												
1. ガイダンス(授業の進め方、課題の発表、評価方法について)						次回課題の準備として情報を集める。												
2. 〈平面課題1〉レタリング イラスト 名刺をつくる						フォントについて調べる。												
3. " 名刺をつくる/講評						修正を加え再提出する。												
4. 〈平面課題2〉平面構成「点による構成」/課題説明						プリントを完成させ提出する。												
5. " /下描き						彩色の道具について各自、確認しておく。												
6. " /彩色						彩色用具をそろえる。												
7. " /講評						修正を加え再提出する。												
8. 〈平面課題3〉映像メディア表現「点を動かす」/講義と演習						完成させ提出する。												
9. 〈立体課題1〉平面から立体を生成する 1/課題説明・練習						道具を揃える。練習課題、試作を進める。												
10. " /課題制作						直線折りの課題を完成させる。												
11. " /課題制作・講評						曲線折りの課題を完成させる。												
12. 〈立体課題2〉平面から立体を生成する 2/課題説明・練習						解説内容を復習し、練習課題を進める。												
13. " /課題制作・講評						課題を完成させる。												
14. 〈立体課題3〉正多面体/正多面体についての講義・練習						各自で紙を購入し、課題を完成させる。												
15. " /課題制作・講評						授業を振り返り、ポイント等を整理する。												
履修上の注意																		
<p>絵具は、不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。</p> <p>はさみ、カッター、定規、接着剤等は各自で用意すること。立体の初回授業で指示をする。</p>																		
成績評価方法・基準																		
平面課題																		
提出課題 40%授業態度 20%、講評での発表の内容 40%で評価する。																		
立体課題																		
提出課題 70%授業態度 30%で評価する。																		
講評会でフィードバックを行う。																		
教科書 特に定めない。 必要に応じて授業時にプリントを配布する。																		
参考書 その都度、紹介する。																		
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。																		

授業科目名	メディア芸術基礎 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	鈴木 専	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表 1 年				
授業概要													
メディア芸術基礎 I では、コンピューターを使用するための知識と技能を学び、コンピューターリテラシーを身につける。グラフィックソフト (Illustrator、Photoshop) を用いた演習を通して、今後の作品制作に必要なグラフィックソフトの基本的な操作と表現技法を身につけられるよう指導する。メディア芸術の事例を紹介しながら、メディア芸術への理解を促すと共に、様々なデジタル表現を理解し、視野を広げられるよう教授する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
コンピューターリテラシーを身につける									○				
Illustrator の基本的な操作と表現技法を身につける				○	○								
Photoshop の基本的な操作と表現技法を身につける				○	○								
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス				CP 操作についての調査									
2. コンピューターリテラシー				CP 操作についての調査・制作準備									
3. 課題 1 Illustrator 基礎演習①				制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
4. テーマ設定、アイデアスケッチ				デザインの調査・制作プロセスまとめ									
5. 制作、仕上げ、発表				発表準備・課題のまとめ									
6. 課題 2 Illustrator 基礎演習②				制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
7. テーマ設定、アイデアスケッチ				デザインの調査・制作プロセスまとめ									
8. 制作、仕上げ、発表				発表準備・課題のまとめ									
9. メディア芸術の事例				メディア芸術についての調査・制作準備									
10. 課題 3 Photoshop 基礎演習①				制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
11. テーマ設定、アイデアスケッチ				テーマの調査・制作プロセスまとめ									
12. 制作、仕上げ、発表				発表準備・課題のまとめ									
13. 課題 4 Photoshop 基礎演習②				制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
14. テーマ設定、アイデアスケッチ				テーマの調査・制作プロセスまとめ									
15. 制作、仕上げ、発表				発表準備・課題のまとめ									
履修上の注意													
毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。教材・材料費 (500 円程度) を徴収する。													
成績評価方法・基準													
課題 (制作物、発表) 50%、出席を含む平常点 (授業態度、取り組みの姿勢、ふりかえり等) 50%、課題作品については、授業中にフィードバックする。													
教科書 ワークシートを配布する、適宜指示する													
参考書 [これからはじめる Illustrator の本][技術評論社][2030 円][これからはじめる Photoshop の本][技術評論社][2030 円]													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付ける。													

授業科目名	メディア芸術基礎Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	鈴木 専	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
メディア芸術基礎Ⅱでは、他者へ向けて、伝えたい内容（制作意図）を自分の言葉でまとめ、わかりやすく伝える力を育めるよう、プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。グラフィックソフト（Illustrator、Photoshop）を用いた演習を通して、今後の作品制作に必要な応用的な操作と表現技法を身につけられるよう指導する。メディア芸術の事例を紹介しながら、メディア芸術への理解を促すと共に、様々なデジタル表現を理解し、視野を広げられるよう教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
プレゼンテーションを通して他者に制作意図を伝えられる										○				
Illustrator の応用的な操作と表現技法を身につける							○	○						
Photoshop の応用的な操作と表現技法を身につける							○	○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					プレゼンについての調査									
2. プレゼンテーション					プレゼンについての調査・制作準備									
3. 課題1 Illustrator 演習①					制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
4. テーマ設定、アイデアスケッチ					デザインの調査・制作プロセスまとめ									
5. 制作、仕上げ、プレゼンテーション					プレゼン準備・課題のまとめ									
6. 課題2 Illustrator 演習②					制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
7. テーマ設定、アイデアスケッチ					デザインの調査・制作プロセスまとめ									
8. 制作、仕上げ、プレゼンテーション					プレゼン準備・課題のまとめ									
9. メディア芸術の事例					メディア芸術についての調査・制作準備									
10. 課題3 Photoshop 演習①					制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
11. テーマ設定、アイデアスケッチ					テーマの調査・制作プロセスまとめ									
12. 制作、仕上げ、プレゼンテーション					プレゼン準備・課題のまとめ									
13 課題4 Photoshop 演習②					制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
14. テーマ設定、アイデアスケッチ					テーマの調査・制作プロセスまとめ									
15. 制作、仕上げ、プレゼンテーション					プレゼン準備・課題のまとめ									
履修上の注意														
毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。材料費（500円程度）を徴収する。														
成績評価方法・基準														
課題（制作物、プレゼンテーション）50%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢、ふりかえり等）50%、課題作品については、授業中にフィードバックする。														
教科書 ワークシートを配布する、適宜指示する														
参考書 [これからはじめる Illustrator の本][技術評論社][2030円][これからはじめる Photoshop の本][技術評論社][2030円]														
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名	色彩学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	大堀 恵子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>美術における純粋美術（絵画、彫刻分野等）と応用美術（デザイン、工芸分野、メディア芸術分野等）に関する実学教育に必要なとなる、色彩の基礎的知識から基礎的発想力と、創造的に実践する能力を身につける。目的に合った配色を得るために、色材を使って色再現を行なう。また色の基本概念である色料の三原色の基本原則を理解する。また、指定された場所に色票を貼付し演習することで、色への理解を深めるとともに作品鑑賞により外国と日本の色彩感覚の違いを理解できるように指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
色彩学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。					○	○	○							
学習した知識を深めることができる能力を身につける。					○	○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「授業内容と進め方」「評価方法と試験」の説明					課題ファイルと講義ノートを用意すること									
2. 色相環をつくる（色再現）					定規、パレット、筆、水彩絵具を用意すること									
3. 明度スケール、彩度スケールをつくる（色再現）					定規、パレット、筆、水彩絵具を用意すること									
4. 色が見える仕組みについて（光、物、視覚）					復習してくること。									
5. 色の混色について（加法、並置、減法）					復習してくること。									
6. 色の属性について（有彩色と無彩色、色相、明度、彩度）					復習してくること。									
7. 色の属性について（トーン）					課題を完成させること。復習してくること									
8. 色の対比について					課題を完成させること。復習してくること									
9. 色の感じ方について					課題を完成させること。復習してくること									
10. 配色について ・色相をもとにした配色					課題を完成させること。復習してくること									
11. " ・彩度をもとにした配色					課題を完成させること。復習してくること									
12. " ・トーンをもとにした配色					課題を完成させること。復習してくること									
13. " ・配色の応用-1					課題を完成させること。復習してくること									
14. " ・配色の応用-2					課題を完成させること。復習してくること									
15. まとめ					課題の整理									
16. 期末試験														
履修上の注意														
<p>準備物（着彩用具、ハーモニックカラーチャート、配色カード、はさみ、のり）と毎回出される課題を忘れないこと。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>演習課題については、授業中にフィードバックをします。</p> <p>1.試験（40%） 2.講義ノート・演習課題ファイル（40%） 3.受講態度（20%）</p>														
教科書 〔ハーモニックカラーチャート、配色カード〕〔日本色彩研究所〕〔2500円〕														
参考書 無し														
備考														
<p>ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。</p> <p>質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。</p>														

授業科目名	美術史 I			単位 (総授業時間+自習時間)					2(30+60)				
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年				
授業概要													
①ヴァイランドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史における「オリジナリティー」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
19世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。				○	○								
作品間、美術家間の関係を説明できる。				○	○								
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 美術史における「個人」について				「つくる美術史のテキスト」による予習									
2. メソポタミア文明以前の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
3. エジプト文明の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
4. ギリシャ文明化～ヘレニズム時代の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
5. 初期キリスト教美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
6. ビザンティン美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
7. 初期中世美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
8. 中間テスト				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
9. ロマネスク・ゴシックの美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
10. ルネッサンス				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
11. ルネッサンスとベネチア派				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
12. マニエリスム～北方ルネッサンス				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
13. バロック・ロココ				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
15. 象徴主義の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」による復習									
16. 試験				テキスト、参考書を用いて自己採点									
履修上の注意													
毎回、講義にクイズを課す。(必ず提出してから退出すること)中間テスト、期末試験を課す。													
成績評価方法・基準													
中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う)													
期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。(参照なしの解答については、満点を120点とする)													
教科書 [つくる美術史のテキスト] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]													
参考書 [美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料] [美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]													
備考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)													

授業科目名	美術史Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)					
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方とその乖離について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史における変化の背景について考察を促す。														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
日本美術史の流れについて説明できる。				○	○									
東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。				○	○									
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）										
1. オリエンテーション（縄文人が築いたものー弥生人が築いたもの）				ワークシートによる予習										
2. 縄文時代				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
3. 弥生時代・古墳時代の美術				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
4. 仏教、仏像について				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
5. 飛鳥時代の美術				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
6. 奈良(白鳳)時代の美術				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
7. 奈良(天平)時代の美術1(塑像等)				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
8. 中間テスト				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
9. 奈良(天平)時代の美術2(乾漆像等)				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
10. 奈良(天平)時代の美術3(平面)				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
11. 平安時代の美術1(密教美術)				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
12. 平安時代の美術2(立体)				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
13. 平安時代の美術3(平面)				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
15. 桃山・江戸時代以降の美術				クイズ、配布資料（解答例）による復習										
16. 試験				ワークシート、配布資料を用いて自己採点										
履修上の注意														
毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。														
成績評価方法・基準														
中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う)														
期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。(参照なしの解答については、満点を120点とする)														
教科書 その都度、資料を配布する。														
参考書 その都度、参考資料を配布する。														
備考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)														

授業科目名	美術特別講義 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(15+15)					
担当者	三上 秀夫 (1年担任)	必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>美術を学ぶための導入と捉え、主に東京方面の美術館、博物館、画廊等を見学研修し興味を喚起しながら、主体的に美術に取り組むための基本的態度が身につくよう指導を行う。美術の基礎的知識、造形要素である作品テーマ、画材、素材、美術史的知識等を、自らが選び、足を運んで見学したい作品や特徴ある美術館の調査・研究をしながら主体的に学べるよう指導する。</p> <p>基本的にグループ行動とし調査研究もお互いに学びながら協働して行う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
美術分野の基礎的知識や学習態度を身につけることができる。					○									
美術の専門的知識と基本的な体系を理解することができる。						○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 授業ガイダンス					調査をする									
2. 事前学修①(個人調査)					調査をする									
3. 事前学修②(グループ調査)					調査をまとめる									
4. 見学したい美術館・博物館を調べる① (作品を中心に)					他に気になっている事を調べる									
5. 見学したい美術館・博物館を調べる② (場所を考慮して)					関連する情報を集める									
6. 調べたことをまとめる					関連する情報を集める									
7. 調べたことを発表する					調査内容を提出する									
8. 見学研修① (第1日)					見学内容をまとめる									
9. 見学研修② (第1日) 見学内容を発表する					見学内容をまとめる									
10. 見学研修③ (第2日)					見学内容をまとめる									
11. 見学研修④ (第2日)					見学内容をまとめる									
12. 発表内容をまとめる					見学内容をまとめる									
13. 見学内容を発表する														
14. 見学内容を発表する														
15. 研修旅行全体の振り返り					授業まとめ									
履修上の注意														
研修中に見学内容の発表を行い、後半の見学研修の参考にする。														
成績評価方法・基準														
研修態度 50%、調査内容 50%、														
教科書 資料を配布する。														
参考書 適宜指示する														
備考														
質問については、授業時あるいはオフィスアワー (曜日 日時は掲示で確認) に受け付けます。														

授業科目名	美術特別講義Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋15)					
担当者	伊藤 恵夫	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
造形表現に必要なとなる人体の構造についての基礎知識を学ぶ。														
人体に関する知識を十分理解するとともに、実際に造形表現された作品についてその表現法などを美術解剖学的な立場から学ぶ。扱う内容は、頭部の骨格、頭部の筋、体幹の骨格、頸部と体幹の筋、体肢の骨格と筋、プロポーション等である。														
また、人体のみならず可動人形、動物および植物、天象（水や炎など）の表現についても美術解剖学的な視点から解説し、折紙等を用いて生物のバランスについても学ぶ。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
① 人体の構造について理解を深め、造形作品の制作に応用できる。					○			○						
② 人体について、観察・理解・効果・表現を実践することができる。							○	○			○			
③ 造形表現されたカッコイイ嘘について美術解剖学的に分析できる。							○					○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 美術解剖学概論、プロポーション					好きなキャラ等のプロポーションを測っておく									
2. 頭部の骨と筋					頭の骨と筋の図、イラストを収集しておく									
3. 人体の構造と可動人形					人体と可動人形の違いを考えておく									
4. 体幹の骨と筋、乳房					体幹の骨と筋の図を収集しておく									
5. 日本の伝統工芸：折紙、生物のバランス					折紙の作例の図を収集しておく									
6. 体肢の骨と筋					体肢の骨と筋の図を収集しておく									
7. コントラポスト、ジョジョ立ち					コントラポストの作例を探しておく									
8. 天象美術解剖学					風や炎などを造形表現した作例を探しておく									
9.														
10.														
11.														
12.														
13.														
14.														
15.														
履修上の注意														
教室内では携帯電話・スマートフォンの電源は切る。飲食厳禁。10分以上の遅刻は欠席とする。														
成績評価方法・基準														
① 授業中に課す提出物またはノート（評価割合30%）、レポート試験（評価割合70%）。														
② 授業中に課した提出物については、次回の授業内でフィードバックを行う。														
教科書 「資料」として授業時にプリントを配布する														
参考書 〔ホネ事典〕〔スティーブ・パーカー〕〔あすなる書房〕〔2500円＋税〕														
備考 質問等については、授業中および授業終了時のオフィスアワーで受け付ける。														

授業科目名	地域創生演習 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+30)					
担当者	三上秀夫・鶴巻史子・渡邊一馬	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>普段の生活や大学での授業等で学んだことを基に、自らが暮らす地域を主体的に創っていくために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。その入り口となるこの「地域創生演習 I」では、大学での学びに必要な知識や方法について触れる機会とし、次のような課題設定と指導を行う。自身の身の回りの「気になること」をテーマに、「見る・考える・書く・話す・聞く・まとめる」等の基本的な能力が身につくよう課題を設定する。また、学生が主体的に取材や調査研究することによって、自らが立てた課題を解決できるよう指導する。</p> <p style="text-align: right;">(担当：前半／鶴巻、渡邊 後半／三上、渡邊)</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
「地域創生」の意義について理解できるようになる。								○						
自分の意見を持ち、自分以外とのコミュニケーションが出来るようになる。									○					
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 授業ガイダンス					気になっている事を集める (事後)									
2. 「私」が気になっている事をまとめる					気になっている事を集める (事前)									
3. 気になっている事を発表する					発表まとめ (事後)									
4. 気になっている事を調べる① (事例の共有)					他に気になっている事を調べる (事前)									
5. 気になっている事を調べる② (調査の仕方)					関連する情報を集める (事後)									
6. 調べたことをまとめる					関連する情報を集める (事前)									
7. 調べたことを発表する					発表まとめ (事後)									
8. 解決策のアイデアをつくる① (チーム構築)					アイデアを妄想する (事前)									
9. 解決策のアイデアをつくる② (理想像検討)					チームで理想像検討 (事後)									
10. 解決策のアイデアをつくる③ (アイデア検討)					チームで理想像検討 (事前)									
11. 解決策のアイデアをつくる④ (追加調査検討)					チームで追加調査 (事後)									
12. 発表内容をまとめる					チームで追加調査 (事前)									
13. 発表資料をつくる					チームで発表資料準備 (事後)									
14. 解決策を発表する					チームで発表資料準備 (事前)									
15. 授業全体の振り返り					授業まとめ									
履修上の注意														
隔週開講で二時間連続の講座です。また、授業と自習 (事前事後学修) がセットになっています。														
成績評価方法・基準														
グループワークへの貢献と発表 50%、最終振り返り 50% 調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。														
教科書 事前に資料を配布する。														
参考書 特になし														
備考														
質問については、授業時あるいはオフィスアワー (曜日 日時は掲示で確認) に受け付けます。														

授業科目名	地域創生演習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+30)					
担当者	瀬戸典彦・三浦輝子・和田正春	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	美表1年					
授業概要														
<p>普段の生活や大学で学んだことを基に、自らが暮らす地域を主体的に創っていくために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。この「地域創生演習Ⅱ」では、「地域創生演習Ⅰ」で課題解決の一連の流れを経験している学生に対し、次のような課題設定と指導を行う。よりよい地域をつくるために、大学に寄せられている具体的なフィールドワークのいくつかをテーマに、課題や問題点について美術を通じた解決ができるよう指導する。学生自らが立てた課題に対して主体的に取材や調査研究をすることで、課題に対する理解が深められるよう指導する。（担当：前半／三浦、和田 後半／瀬戸、和田）</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
「地域創生」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。								○						
グループで目標に向かって協働する手法やリーダーシップを学び、実践できるようになる。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業ガイダンス					予定テーマについて調査（事後）									
2. テーマの紹介とグループ編成					予定テーマについて調査（事前）									
3. 理想像と課題を考える					テーマに関する仮説を検討する（事後）									
4. テーマを調べる①（ヒアリング内容検討）					テーマに関する仮説を検討する（事前）									
5. テーマを調べる②（関係者にヒアリング）					ヒアリング内容まとめ（事後）									
6. 調べたことをまとめる					ヒアリング内容まとめ（事前）									
7. 調べたことを発表する					発表まとめ（事後）									
8. 解決策のアイデアをつくる①（アイデア検討）					アイデアを妄想する（事前）									
9. 解決策のアイデアをつくる②（中間発表）					チームで追加調査（事後）									
10. テーマを調べる①（追加調査の検討）					チームで追加調査（事前）									
11. テーマを調べる②（関係者にヒアリング）					チームで追加調査（事後）									
12. 解決策のアイデアをつくる①（アイデアの強化）					チームで追加調査（事前）									
13. 解決策のアイデアをつくる②（発表準備）					チームで発表資料準備（事後）									
14. 解決策を発表する					チームで発表資料準備（事前）									
15. 授業全体の振り返り					授業まとめ									
履修上の注意														
隔週開講で二時間連続の講座です。また、授業と自習（事前事後学修）がセットになっています。														
成績評価方法・基準														
グループワークへの貢献と発表 50%、最終振り返り 50% 調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。														
教科書 事前に資料を配布する。														
参考書 特になし														
備考														
質問については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日 日時は掲示で確認）に受け付けます。														

教職に関する科目

3. 教職に関する科目

授業科目名	教職概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	笠間 賢二	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年
授業概要									
<p>教師という職業（教職）の意義・職務・課題について学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。</p> <p>(1) 教職に対する社会的期待（教職観）がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、(2) 教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、(3) 教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする、以上を学修内容とする。</p>									
授業の到達目標									
(1) 教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。									
(2) 教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。									
(3) 教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. ガイダンス					<p>予習の部分で定型的な作業は求めません。ただし、これまでの自分の被教育体験をしっかりと振り返って整理してみてください。教育や教師のあり様を考える糧になるはずです。</p> <p>復習することは、毎回、必須です。ただしその際、授業内容を記憶に留めるための学習ではなく、それをより膨らませる学習（例えば、関連する事項を図書館で調べることなど）を心がけてください。</p>				
2. 教師のしごとの実際（VTR 併用）									
3. 教職観の変遷：聖職者 ⇄ 労働者 ⇄ 専門職									
4. 専門職としての教師：他の専門職との比較									
5. 公教育と教師：公共的使命、身分保障と服務									
6. 教師の職能成長：研修をめぐる諸問題									
7. カリキュラム編成と教師									
8. 授業づくりと教師									
9. 子どもの権利と教師									
10. 児童・生徒の懲戒（1）：教育作用としての懲戒									
11. 児童・生徒の懲戒（2）：とくに体罰をめぐる									
12. 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議①：いま教師に求められる力量について									
13. 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議②：いま教師に求められる力量について									
14. 「チーム学校」という考え方									
15. 「教員文化」をめぐる諸問題									
16. 最終試験									
履修上の注意									
<p>「私語」「内職」は慎むこと、欠席は事前に届け出ること、課題の提出は期限を守ること。これらは常識です。</p>									
成績評価方法・基準									
<p>おさらいレポート、グループ討議の報告内容（12～13回）、定期試験、これらを勘案して評価します。レポートは後日フィードバックします。</p>									
教科書 教科書は使用しません。毎回授業前にレジュメを配布します。									
参考書 参考書は随時紹介します。									
備考									
<p>(1) 資格要件に関する情報 ⇒ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。</p> <p>(2) 特別な配慮を要する学生に対する扱い ⇒ 申し出てください。</p> <p>(3) 質問等については、授業終了時に受け付けます。</p>									

博物館に関する科目

4. 博物館に関する科目

授業科目名	生涯学習概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	伊藤 優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年
授業概要 我が国の社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習と社会教育、学校教育との関係性を明らかにする。また、「生涯学習論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、博物館と学芸員の社会的位置付けを明らかにする。さらに、生涯各期にみられる生涯学習に係る現代的な課題と今後の展望を示す。									
授業の到達目標 生涯学習に関する歴史・方法・計画等の基礎的知識を習得する。 生涯学習社会における博物館の使命を知り、学芸員の役割を検討する思考を身につける。 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. ガイダンス：講義の進め方・生涯学習と社会教育					身近にある生涯学習施設を確認しておく				
2. 生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）					仙台市の市民センターの歴史を調べて授業に臨む				
3. 生涯学習と社会教育の歴史②（現代）									
4. 「生涯学習論」					ユネスコの概要を調べる				
5. リカレント教育					OECDの概要を調べる				
6. 生涯学習と学校教育					生涯学習と学校教育の相違を調べる				
7. 生涯学習の方法と内容					身近な生涯学習施設の学習プログラムに参加し、その内容を授業中に報告する				
8. 生涯学習と社会教育の計画									
9. 学習プログラムの編成①（学習プログラムの多様性）									
10. 学習プログラムの編成②（学習プログラム編成の視点）									
11. 生涯学習関連行政の仕組み①（行政の役割と組織）					身近な社会教育関連団体等を調べる				
12. 生涯学習関連行政の仕組み②（社会教育関連団体）									
13. 生涯学習と博物館・学芸員					博物館の役割と機能を調べる				
14. 生涯各期の教育課題					少子高齢化社会の課題を調べる				
15. 講義のまとめ 生涯学習社会の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16. 試験									
履修上の注意 意欲的な学修姿勢を重視する。社会教育プログラム等に積極的に参加すること。 自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。									
成績評価方法・基準 事前事後学修を含む受講態度（50%）、期末試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。									
参考書 〔生涯学習論 第1次改訂版〕〔佐藤晴雄〕〔学陽書房〕〔2,500円＋税〕									
備考 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	伊藤 優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年
授業概要									
<p>仙台・宮城ミュージアムアライアンス加盟館等の身近な博物館の紹介を導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM 規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。その上で、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。</p>									
授業の到達目標									
博物館の目的・機能・社会的役割等の基礎的知識を習得する。									
博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：講義の進め方・学芸員資格について					自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する				
2.身近な博物館（SMMA、歴ネット等）									
3.博物館の定義・目的					ICOM、ユネスコの概要を調べる				
4.博物館の分類・施設・設備					博物館法を調べる				
5.博物館の機能①（資料収集・整理保管）					博物館データベースを調べる				
6.博物館の機能②（調査研究）					博物館研究紀要等を調べる				
7.博物館の機能③（展示）					博物館展示情報を調べる				
8.博物館の機能④（教育普及）					博物館教育プログラムを調べる				
9.博物館史①（博物館の誕生）					欧米の博物館情報と、日本の様々な博物館情報を調べ、授業中に報告する				
10.博物館史②（近代）									
11.博物館史③（日本の博物館史）									
12.博物館の現状									
13.博物館関係法令と政策					社会教育法、文化財保護法を調べる				
14.地域社会と博物館					博物館ボランティアを調べる				
15.講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16.試験									
履修上の注意									
<p>意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。 自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。</p>									
成績評価方法・基準									
<p>事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。</p>									
教科書 なし									
参考書〔博物館学Ⅰ〕〔大堀哲・水嶋栄治編〕〔学文社〕〔2,300円＋税〕									
備考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館教育論				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)
担当者	伊藤 優	必・選	学 (必)	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年
授業の概要									
博物館教育活動の変遷を明らかにし、現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景を元に示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、博物館評価システムをはじめとして、その解決の方策に対する理解を深める。									
授業の到達目標									
学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。									
博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)				
1.ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の変遷					博物館概論の学修内容を復習しておく				
2.博物館での学び					自身の経験をもとに「分かる」ことの事例を確認して授業に臨む				
3.博物館教育の特徴と可能性									
4.博物館教育と市民活動					博物館と市民活動の事例を調べる				
5.博物館教育と学校教育					博物館と学校教育の相違を調べる				
6.博物館の教育活動① (教育活動の諸形態)					博物館教育に関わる教材等を入手し、授業中に報告する				
7.博物館の教育活動② (教育プログラムの実施プロセス)									
8.博物館の教育活動③ (教材の作成・ユニバーサルデザイン)					ユニバーサルデザインの事例を調べる				
9.博物館の教育活動④ (教育プログラムとボランティア活動)					ボランティア活動の事例を調べる				
10.様々な博物館教育① (美術館・歴史博物館)					様々な博物館の教育プログラムに参加して、その内容を授業中に報告する				
11.様々な博物館教育② (科学館・文学館)									
12.様々な博物館教育② (エコミュージアム・大学博物館)									
13.博物館教育プログラムの評価① (評価システムについて)					自身の経験をもとに「評価」の意義を確認して授業に臨む				
14.博物館教育プログラムの評価② (評価の意義に関する演習)									
15.講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16 試験									
履修上の注意									
意欲的な学修姿勢を重視する。博物館事業に積極的に参加すること。									
自習 (事前・事後学修) の詳細は講義中に示す。									
成績評価方法・基準									
事前事後学修を含む受講態度 (50%)、試験 (50%) で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。									
参考書 [博物館教育論] [小笠原喜康 他編] [ぎょうせい] [3,048 円+税]									
備考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									